

Abraham Lincoln

932
792

932-D92ウ



1200500759819



×
複写

ジョン・ドリングウォーター作
鈴木文史朗訳 並ニ 解説

戯曲

エーブラム・リンカーン

吉田書房版



始



932
D92
Abraham Lincoln
A Play
By John Drinkwater

ジョン・ドリンクウォーター作
鈴木文史朗譯
エーブラハム・リンカーン

吉田書房版



この書の原著者と
リンカーンに就いて

鈴木文史朗

この書の原著を読む前に、私はこれを舞臺の上で先づ観た。一九一九年の冬、ワシントンに於てであつた。その時の舞臺の印象は、二十五年餘を過ぎた今日まで明瞭に記憶に残つてゐる。英米兩國で數年間の内に、恐らく百回以上芝居を観たが、これほど感激を以て見たものは他に一二しかない。その時のワシントンには國際聯盟の第一回國際會議が開催されて居り、私はその會議への新聞特派員であつたが、劇場で隣の席に英國政府代表ベーンズ氏がゐて、同氏が二度ハンケチを出して涙を拭くのを見た。(その爲に、私はベーンズ氏の容貌を、その時の舞臺面と共に、今でもはつきりと想ひ出せる)

この劇がアメリカで上演される前に、ロンドンでは既に一年連續興行を打續けて居た。場末の小さな小屋で、大して名もない俳優等により始められたものであつたが、開場後間もなく評判になり、外國からロンド

ンに来るほどの者は、大使も王様も大學者も、一度これを観て置かないと社交の話に困ると言ふわけであつた。従つて、かういふ人達も切符を手に入れるのに骨が折れたといふ話であつた。

アメリカの興行師が、これをアメリカで上演する決心をするまでには、大分考へたさうである。それは、第一この劇には戀愛が全くない。戀愛のない劇は、アメリカでは昔から失敗といふ事に相場が決まつてゐるといふのである。然しその豫想を裏切つて、アメリカでも大成功であつた。尤も、興行には非常な張り方をして、リンカーンになる役者は、本場のアメリカではリンカーンの生き寫しでなければ観客が承知しまいといふので、全国にわたつてリンカーン役者を探し、一年もかゝつてやつと田舎廻りの劇團の中から適役者を見つけ出したといふのである。ワシントンで私が見たのもその俳優のリンカーンであつたが、實際に顔も寫眞そつくりであり、身長も六尺ゆたかまで肥り過ぎず、演技も素晴らしかつた。

さて、この劇が英米兩國の舞臺でその當時のヒットであつたのは、脚本そのものが、ジョン・ドリンクウォーターの歴史劇の中で最も傑出したものであつて、リンカーンの面影、精神、性格が生々と描き出されてゐる爲であることは言ふまでもあるまい。ドリンクウォーターは近年英國文壇の一奇才といふべく、詩、劇、散文等の著作は五十篇に及び、H.G.ウエルズと共に最も精力的な作家であつた。一八八二年に生れ、今度の第二次世界大戦直前に没した。裕福でない家庭に生れ、學校は中學校程度で終り、その後自活の爲久しく保險會社の下級社員として勤めてゐた。少年の頃から劇と文學を愛好し、殊に俳優たらんと熱望した。會社員として勤務の傍ら、二十一歳の時早くも詩集を公にし、又新劇の運動に携はり、二十一歳になつて會社員

をやめ、パーミンガム・レバトリ劇場の支配人となつた。

「エーブラハム・リンカーン」は一九一八年に書きおろされ、パーミンガムの彼の劇場でロンドン上演に先立ち試みられたものである。一九一九年ロンドンで上演の第一夜には、彼はフックの役を自ら演じ、八月中は主役を演じた。彼の脚本が舞臺にのせて見て、少しの隙もないのは、彼自身が俳優でもあり、舞臺上のテクニクを悉皆心得てゐる爲であらう。

ドリンクウォーターは第一に詩人である。その抒情詩も廣く讀まれて來たが、詩的劇作家といふのが彼の本領である。「オリヴァ・タロムウエル」「メリー・スチュアート」「ロバート・リー」等々の作があり、何れも詩人の目を通じて見た歴史物語といふ處に特色がある。

二

ドリンクウォーターは原著の序文の中に左のやうな意味を言つてゐる。――

「この劇の材料はチャーウッド卿の名著であるリンカーン傳に負ふところが多い。然し、自分は歴史家の立場でなく、劇作家の立場からこの主人公を扱つたものである。歴史の事實を曲げようとはしなかつたが、材料を自由に取捨安排し、劇としての必要に応じて事實の動きについては創作をした。それからこの脚本にリンカーンの關係の一人として登場してゐるフックは全くの創作で、これは大統領に對して反對行動をこつてゐた或る種の勢力を代表して表現したものである。云々……」

ドリングクウォーターは右にいふ如く、歴史の事實を曲げようとしなかつたところが、寧ろ劇作家としては忠實に過ぎるのではないかとさへ思はれるほどである。前記のフックや端役を除いては、他は皆實在せし人物を寧ろ克明に寫し出さんと試みてゐることは、リンカーン傳を一二冊讀めば明瞭である。更に注目すべきは、劇の主人公の臺辭のぐち急所々々にはリムカーンの言つた通りをそのまま、あるひはそれに近い言葉で入れるのに苦心した點である。例へば第一場で共和黨の代表者に向ひ、リンカーンが奴隷に關し少年の頃の想ひ出を語る所や、第六場の劇場に於ける演説（これはゲナスパークの演説であることは餘りにも有名だが）などは多くの人が直ぐ氣がつくところであらう。

ドリングクウォーターは歴史劇を書くに當つては、書物や關係材料を多く蒐集し、それを精讀し、その後で一氣呵成に書く習慣であつたといふ。だから、リンカーンについても多く讀んだ後、詩人たる彼の心裡に最も明瞭に焼きつけられた幾つかの印象が、この脚本の本筋として残つたに違ひない。

詩人は——その名に値するものは——眞實を直感し、把握する。ドリングクウォーターの戯曲リンカーンが他の多くの傳記物語よりも、何分の一或ひは何十分の一の語数を以てしてその人物を再現すること、何倍或ひは何十倍かと思はれるのはその爲であらう。原著者がこの戯曲の中に盛らうとした中心思想はどこにあるか。それは、リンカーンが戦争遂行にあつて高貴な念慮と想像力とを常に持ち續けてゐたことは、人をして感奮興起せしむるに足る好模範である點——それであると彼はいつてゐる。

リンカーンが戦争遂行に當つて常に抱いてゐた高貴な念慮は何とか。第一に、彼は戦争そのものを極端に

嫌惡したが、然しアメリカ合衆國ユニオンを保持する爲、即ち合衆國憲法を護る爲、その主義の爲には最後には戦争も辭さなかつたといふ事。第二に、戦争中も敵に對して寛仁大度の心を持ち續けたと同時に、味方の陣営内でも之に反する者は、心から憎惡した。（第三場に出て来るブロー夫人に對するリンカーン態度は之を表はしたものである）第三に、奴隷解放問題を戦争繼續中にも、好機を捉へて一舉に解決せんと當に苦心慘澹してゐたことである。南北戦争の直接原因は、南部十一州が奴隷問題で、合衆國ユニオンから離脱し、その領土内にあつた合衆國政府の數箇所の要塞等を攻撃し占領した爲であり、奴隷問題そのものではなかつた。リンカーンは、大統領就任演説の中で、奴隷制度に直接間接干渉する意志はなく、又大統領としてその權能もない、と聲明してゐる。それ程この問題は、當時のアメリカの南北兩地方の間に一觸即發の危機を孕んでゐたものである。そこで戦争を賭してまで奴隷問題を解決する決心はなかつたが——戦争そのものをそれ程嫌惡したが——一度、前記の原因で戦争となつた時、合衆國ユニオンを維持すると共に、この大問題を同時に解決し去らうと決意したのである。それはこの戯曲中にもよく説明されてゐる。それは政治家として危険極まる政策であつたが、——彼の暗殺が示す如く——彼は人道の爲、敢然としてその所信を斷行した。

又リンカーンが常に想像力を持つてゐたといふことは何か。これは——多くの大政治家たる者が具有すべき一條件であると昔から歐米ではいはれてゐることだが——事を爲すに當つてもその總ゆる面に對する將來の影響を正確に見通すことである。この能力の無いものは眼前の情勢や事件にのみ囚はれてその日暮しに墮し、永久性のある政治や事業は出来ない。リンカーンが單なる人道主義者でなく偉大な政治家であつたの

ば、この想像力を持つてゐたからである。これもこの戯曲中に随所によく出てゐると思ふ。

原著に就いて最後に附言して置くべきことがある。それは原著には、こゝに譯出した本文の他に幕毎に、それを哲學的に且つ咏嘆的に説明する古典調の詩が附いてゐることである。二人のクロニクラー（史家）が出て來て同時に、或ひは交互にこれを吟詠する形式になつて居る。日本の讀者には、省略しても差支へないものと思つて、譯さなかつた次第である。

三

次にこの戯曲に現はれる以前のリンカーンに就き簡略に記して見たいと思ふ。それはこの戯曲を更によく諒解する上にも役立つ。又リンカーン傳の概念をこの書だけで先づ知りたいと思ふ讀者にも便利だらうと考へられるからである。

リンカーンは、一八〇九年、ケンタッキー州の曠野といふか山中といふか、原始林と荒蕪地と敢意に滿ちたインディアンの他には何もない開拓地の中に、ぼつんと建てられたロッグ・キャビン、即ち丸太小屋の中に生れた。この丸太小屋は、始めは窓さへもない原始的なもので、隣り近所といつても何哩も隔つてゐた。祖父の代から開拓農人として一家を擧げて腕一本、腰一本を資本として次から次と、好適地を求めては近隣各州を移住してゐた家筋である。祖父は自分の家の前で、インディアンから不意撃ちされて惨死した。母には幼少の時別れたが、その母も次に來た繼母も、立派な性質の婦人であつた。殊に繼母はリンカーンを愛し讀書

を奨励した。リンカーンは少年の頃に本を讀むと必ずこの母に内容を語り、わからぬところは教へて貰つた。この母の感化は大きかつた。

幼年の頃から彼は勞役、困苦、貧窮の生活を味はひ、八歳になると大きな斧を揮つて木片を割る勞働に立派に従事した。リンカーンの成人した時の身長は六呎四吋であつたが、これはアメリカ人中でも巨人といはれる高さである。青年の頃はその腕力は、どこへ行つても彼に匹敵するものはなかつた。彼は心身共に偉丈夫に生れたのである。

リンカーンが學校へ行つたといふのは、一生を通じて村の小學校のやうなところへ六ヶ月通つただけである。彼が後で測量師になつたのも、辯護士になつたのも、皆獨學自習の結果であつた。寸陰を惜しんで歩き乍らも、仕事休みの間にも讀書した。雜貨店を營んでゐた時でも、客の來ない時は讀書をしてゐた。

この勉學心はどこから出たか、少年の頃から太望心を抱いてゐた爲である。當時のアメリカは獨立以來まだ百年に至らず、開拓者精神、自由獨立の精神は、その素朴なる形で旺盛を極め、誰人でも衆に傑れた者はその欲するいかなる地位にも登り得るといふのが、リンカーンのみならず、その頃の總べてのアメリカ青年の信條であつた。尤も、これは今日といへども、アメリカでは大體さうであるが、當時の方がさういつた氣風が更に一般的であつた。

リンカーンは、かうした氣風を以て獨學で讀書し、時には一冊の書物を借りるのに五十哩を徒歩で往復した。彼は、或る時はゆる「えらい人」の演説を聴き、そのえらい所以はその人が知識を多く持つてゐると

言ふ事を發見した。總ゆる事に多くの知識を持つ事が先決問題だと悟つた。それ以來彼はその積りで勉強した。その結果は、村でも町でも、彼ほどの物識りはなくなつた。

加ふるにリンカーンは生れつきの雄辯家であり座談家であり滑稽話の名手であつた。彼のゆくところ忽ち人が集まり、彼の話に魅せられた。而も、彼が二十歳頃には立派な知識人になつて居ながら、青年リンカーンは一労働者、河舟漕ぎ、村の雜貨屋の番頭に過ぎなかつた。

二十五歳の時、彼は法律の勉強を志した。スプリングフィールドの友人からその爲の書物を借りる爲めにニューサレム(當時はそこに住んでゐた)から二十二哩の道を一日で往復したといふ。數年後遂に辯護士となり、スプリングフィールドで開業した。これが期せずして彼が政界に出る素因となつたのである。

間もなく彼はイリノイ州議會の議員選挙に立候補したが落選した。リンカーンが民衆の直接選挙に失敗したのはこれが最初の最後だといはれる。然し一八三四年、二度目の州議會選挙には當選した。これが彼が政界に乗り出すほんとのジャムプ臺であつた。この時の議員の中には、後年アメリカの歴史に名を残した人々が偶然にも數名ゐた。有名なストラクン・ダグラスもその一人である。リンカーンはかうして始めて各地から選ばれて来た多くの人達に會ひ、語り合ひ議論して、他人の力を知ると共に自分自身の力を知る事が出来た。彼は自信を強めた。尤も、その可成り前から、彼は名士や州議會議員の演説を聴いたりして、自分の力に自信を持ち出してゐたのである。

一八三五年の春、若き州議會議員は郵便局長に任命されていそ／＼とニューサレムに歸つた。その頃彼に

は心の戀人があつた。その地方の名望家ルートレッヂ家の娘アン・メイズで性質も容貌も花のやうに優しく美しかつたといはれる。然しこのアン・メイズにはその時既に婚約者があつた。その男は素性の明らかでない移住者であつたが、婚約後旅に出た儘數年歸つて來ないので、町の人々もその男が婚約を破つたものと思つた。リンカーンとアンは遂に相思の仲となつた。然し結婚の話も始まらぬ内に娘は病死した。死ぬ前はアンはリンカーンを病床に呼んで一日語り合つたといふ。この彼の悲戀、アンの人生が未完成に終る悲しみは、リンカーンを殆んど發狂せしめた。「私の魂はあの娘の墓の下に埋められてゐる」と後年に至つてもリンカーンは語つたといはれる。

リンカーンの爲人の一大特質は、その淋しさである。憂愁癖である。これは實母からも幾分受つた素質であるが、この失意により倍加された。更に歳を経るに従ひ地位の向上と共に人間の淺聞しさ——我利、不道徳、陰謀、裏切り等々、彼の性情人格からは何れも人生の毒素と見るべきものが如何に多く人の世に充滿してゐるかを以て體驗して、一種の厭世觀、或は我々日本人のよくいふ無常觀に陥つてゐたと筆者は觀るのである。この書第四場でブックスに裏切られて後、秘書のヘイに命じてテンベストのあの章句を讀ませるあたりは、さすがに詩人ドリンクウォーターであり、リンカーンの憫むべきところを擲んでゐると思はせるのである。

イリノイ州議會議員としてのリンカーンの記録は特筆大書すべきものはない。三期これをつとめたこと、第二回目の任期中、州議會は奴隷制度養成の決議をした時、彼ひとりこれに反対意見を表明したことは記録されるべきことである。この頃既に奴隷問題は、地方的にも全國的にも大問題になりつゝあつたのである。

この頃のリンカーンは測量師としての収入で主に生活し、又両親へも乏しい中から日送りをしてゐた。そして、相當期間住み慣れたニュー・サレムからその當時の州の中心地であるスプリングフィールドへ引き越したが彼が法律家にならうと決心したのはこの頃のことであり、それが彼の生涯の轉機でもあつた。

スプリングフィールドへ引越した時のリンカーンは、古い衣類少しを入れた袋一つが全財産で、友人の家へ行き一つのベッドへ二人で寝るといふ有様であつた。而もそれから間もなく彼はマリイ・オーエンと結婚したのである。この結婚は戀愛結婚ではなく、寧ろ日本などでよくある行き方であつた。彼の知り合ひの婦人が、「自分にひとり妹があつてケンミッキーにゐるが、あなたが結婚してくれるなら連れて来る」と笑ひ話のやうにいつたのを承知したのであつた。尤も、リンカーンはマリイ・オーエンをそれより三年前に見て知つてはゐた。

ところが、當のマリイが姉に連れられて直きに會ひに来た時、リンカーンは氣がすまなくなつた。容貌は悪くはないが、肥り過ぎてゐることや、その他種々氣に染まぬことが多かつた。斷然止めようか、厭々ながら決行しようかと、煩悶に煩悶を重ねたことは、當時彼の親友に送つた手紙に詳細に書かれてある。結局彼はその娘の姉との最初の約束を重んじて、又彼が破約した場合相手の不幸を思ひやつて、紆餘曲折はあつ

たが、遂に結婚したのである。

ところで、このマリイ・オーエンは當時のアメリカの上流階級に屬する家に生れ、フランス語の女學校を出て、フランス語も流暢に話すインテリでもあつた。非常な勝氣で、小娘の時から、アメリカの大統領夫人になるといつてゐたとも傳へられる。リンカーンとの間は性格の相違から圓滿を欠いてゐたやうである。

この頃、彼は獨學で辯護士となるに成功し、友人と共同で事務所を開き、どうにか生活出来る程度であつた。この職業でも常に正義の爲めに闘ひ、事件によつては、相手の方が正しいと分つた時は、その方を勝たせるといふ行き方であつた。同時に、地方政治家としても活動し、追々認められて來た。所屬政黨は當時のホイッグ、後のリパブリアンであつた。この頃から、彼の勁敵はデモクラット黨の華々しい若い政客メグダスであつた。

イリノイの州議會議員を八年連続して任期を終つた時、州の知事に立候補をすゝめた友人もあつたが、それは斷つた。彼はこの頃首都ワシントンに眼を向けてゐた。國會の議員たらんと自ら決心し遂に成功した。「さて當選して見ると、授けてくれた友人等には感謝するが思つてゐたほど嬉しいものでない」と友人に手紙を書いてゐる。時にリンカーン三十八歳。

五

國會議員としての彼は、直きに有名になつた。彼の素朴さ、話し上手、どこかおどけたところのある風采

誠實そのものの性格、一種特別な雄辯は誰からも認められ新しい友人も多く出来た。有名なウェブスターからも愛されて、朝の食事などに招待されることが多かつた。議會では彼の頭の高さと雄辯とで光り出した。この頃メキシコ戦争が勃發したが彼は少數の議員と共に、この戦争の原因は米國政府の侵略行爲にありとして、政府糾明の演説をやつた。彼の選挙區に於ける友人等はこれを好まなかつたが、彼はそんなことで所信を狂はしなかつた。彼は議會に於ける演説は、その論理がしつかりしてゐる點、調子の高い點、必要に応じて諷刺自在な點、熱意のある點等々で日を経るに従つて有名になつた。その結果、議會休會後はニューヨーク、イングラッド等々政友から演説を依頼され、それに應じて諸方へ行つた。かうして、彼はイリノイとワシントン以外に於て、着々として有名になり始めた。

この頃、奴隷存廢の問題は全國的の最大問題化たらんとしてゐた。北部は大體に於て工業地帯であり、奴隷の數も少く、又イギリスからの初代移民が主動力になつてゐて、宗教的の理由もあり、廢止論が斷然主導してゐた。これに反し、南部は棉花の耕作をはじめ大規模な農業地帯で、奴隷使用により始めて經營が成り立つので、存續論が強硬であつた。

リンカーンは幼少の時から、奴隷廢止の空氣の中に育つて來た。そして、少年の頃各地に稼ぎに行つて、牛馬の如く賣られ行く奴隷を見て、奴隷制の非道徳性を痛感し、それがいつの間にか、彼の血の中へ信念となつて溶けこんで了つてゐた。

かうしてリンカーンは國會議員として一應成功したが、一期で辭め、再びスプリングフィールドで辯護士を開業した。辯護士としては、各地を廻る巡回裁判所附きの辯護士として、いはゞほとんどの田舎辯護士として、生計を立てた。尤も、彼の扱つた事件の中には特記さるべきものも幾つかあつた。これが一八四九年から一八五四年まで、彼が三十歳から三十五歳まで約五年の間である。

然るに、彼が再び政治に歸る機縁が來た。それは、「ミズリー・コンプロマイズ」と呼ばれたミズリー州を非奴隷州と制定した國家の公約が破られることになつたのに端を發する。これを事實上破る法案を議會に提出し、通過せしめたのは例の民主黨のダグラスであつた。

この報を聞いて、リンカーンの血は突如たぎり始めた。彼は、よしつ！と再びこの問題で政治的に起ち上る決意を固めた。そこへ、ダグラスが彼の今度とつた政策に反對してゐるイリノイ州選挙區民をなだめる爲めに乗りこんで來た。ダグラスの最初の演説は聴衆に潮次り飛ばされたが、この政治家の群集統御の力は素晴らしかつた。演説の回を重ねると共に、選挙區は元の如く彼の手中に丸められて行つた。彼がスプリングフィールドへ來て、演説した時、リンカーンが、これを反駁することになつた。會場は割れるやうな聴衆であつた。リンカーンの友人等は、彼が相當うまくやるだらうとは豫期してゐたが、奴隷制度反對のその日の演説を聞いて、皆その出來榮えの異常なのに驚いて了つた。「スプリングフィールド・ジャーナル」紙は、次の如く報道した。

「彼の生涯中の、恐らく最も深遠な演説であつた。リンカーンは彼が叫んだ眞理が燃え上るのを彼の靈の上と感じた。聴衆は皆彼が自己の靈に忠實であるのを感得した。彼は感動に震へた。全會場は死の如く靜か

あつた……」

このリンカーンの演説の結果、ダグラスは翌日又、リンカーンに答へる爲め演説せざるを得なかつた。これが、後で運命のめぐり合せで續けられたリンカーンとダグラスの討論の手始めとはなつた。州民はこれにより、リンカーンこそ反奴隷運動の彼等のリーダーたるべき人と決意するに至つた。

かうして、彼は再び政治運動に入つた。到るところ、招きに應じて、奴隷問題を論じたが、決して全く同じことをいはずといふ。各地の演説はそれごとく、後代にまで残る——残つてゐる——立派なものであつた。かうして、期せずして彼は、アメリカの當時の最大問題の一方の權威者となり、ならぶ者なきリーダーになつた。この時早くも、リンカーンの名は共和黨大統領候補の一人として擧げられた。

然し、その報道が彼の耳に達した時、リンカーンは、「それは別人だらう」といつて、齒牙にもかけなかつた。それほど彼には已惚れがなかつた。又、彼は指名されなかつた。民主黨の候補ブキャナンが當選した。ブキャナンは大統領に就任早々、ドレッド・スコット事件といはれた一大問題をひき起した。この名の奴隷がアメリカの法廷に訴へ出たことから端を發した事件で、大統領の下にある最高法院は、「奴隷は國の法廷に訴へるを得ず、又國會は新領土に於て奴隷を禁止し得ず」といふ判決を下した。

これは國を擧げての大論争となつた。ダグラスはこの判決を支持し、イリノイ州へ又も選挙區民をなだめにやつて來た。米國史で有名な、リンカーンとダグラス討論はこれから始まつた。これは二人が、上院議員を争ふ選挙戦でもあつた。各地を二人が一ヶ月近くも立會演説をして廻つた。リンカーンの評判は全國的に

なつた。上院議員にはリンカーンは落選した。然しこの討論旅行が終つた後、彼はニューヨークその他の大都會から招待された。これ等の中心地に於ける彼の演説が、後で彼を共和黨の次期大統領候補として立たせる機縁となつた。

六

一八六〇年の大統領選挙に、リンカーンを共和黨の候補に立てようとする畫策は、その三四年前から始つてゐた。ダグラスとの討論旅行にリンカーンに同伴したフェルといふ地方政治家が、この考を最初に出したのである。然し、リンカーンは全く問題にもしなかつた。

「共和黨にはセワード、チエーズその他自分よりも遙かによく全國民に知られてゐる人々があるのに、イリノイ以外には知られてゐない自分が大統領候補に立つなんてお話にならない」といふのが最初の返事であつた。然し、イリノイの彼の親友や政友等は着々とその計畫を進めてゐた。愈々選挙の年も迫つての、是が非でも彼を承諾させるまでには、大變な努力を要した。

リンカーンはダグラスとの討論をはじめ、到るところの演説で日毎に名聲を高めて來たにも拘はらず、自分が大統領になるといふことは、あり得ないことだと、候補を承諾した時でも思つてゐた。周囲の熱心極まる勸奨に已むを得ず同意はしたものの、何うせ落選するだらうし、又落選しても一向構はない、といふ心境であつた。この點から見ても、リンカーンは自己一身の榮達を望む野心家では毛頭なかつた。主義の爲めの

大望家であつた。人道の一大選手であつた。

リンカーンを暗殺したブリスといふ男は俳優であつた。あつた原因で起きた戦争の結果として、どこの國にもあり勝ちなことである。彼が殺された報道が傳はつた時、南部諸州に於てすら、隣人手を把り合つて泣く者が多かつたといふことである。

リンカーンはシーザーとか、ナポレオンとか、成吉思汗とか秀吉とかいふいはゆる英雄とは全く異なる偉人である。これ等多くの英雄といはれて来た人々は、リンカーンに比べれば、壯大なる自己中心主義者ともいふべきで、偉人と呼ぶには最も大切な條件を欠いてゐる。リンカーンを偉大と見る尺度からいへば、以上の人々はむしろ卑小な人物とさへいへる。

戦争に負けた日本では、今民主主義の論議で明け暮れしてゐる。民主主義も他の多くの政治上の主義と同じく、時と共に成長し、或は消長がある。然し、基本的には變化はない筈である。アメリカの民主主義の根本と精華は、リンカーンの生涯に具現されてゐると私は思ふ。彼を研究することは、偉大な一人の人間を知ると共に、眞のアメリカ民主主義の何んたるかを知ることである。アメリカに於ても、この人の傳記が誰のよりも最も多く出てゐるが、更に最近新しい研究書が數部出てゐる。これからも更に又出るだらう。私は後で機會があつたら、多少讀つたリンカーン傳を、最近の研究書にも據り、日本人の立場から書いて見たい衝動に驅られてゐる。(昭和二十一年一月二十日東京世田谷下北澤にて誌す)

エーブラハム・リンカーン (六場)

登場人物

スドーン……………農業者
 カフニイ……………商店主
 スーザン……………女中
 エーブラハム・リンカーン
 リンカーン夫人
 ウイリアム・タッカー……………商人
 ヘンリー・ハインド……………辯護士
 イライアス・ブライス……………職業とせざる牧師
 ジェームス・マッキントッシュ……………共和黨新聞の編輯長
 ウイリアム・H・セワード……………國務長官
 ジョン・ヘイ……………秘書官
 第二書記
 使者
 第三書記
 サルモン・P・チエーズ……………財務長官
 モントゴメリー・ブレイア……………逓信長官
 ジョンソン・ホワイト……………各州長官の代表
 カレブ・ジェニンクス……………
 ホーキンズ……………書記

關係

サイモン・カメロン
 カレブ・スミス……………
 パーネット・フック……………
 ギデオン・ウエルズ……………
 ゴライアス・ブロー夫人(リンカーン夫人の知人)
 アザリー夫人(同)
 ウイリアム・カスチス(黒人の牧師)
 エドウイン・スタントン(陸軍長官)
 グラント將軍(聯合政府軍司令官)
 マリンズ大尉(副官)
 デニス(傳令)
 第二の傳令
 若き士官
 ウイリアム・スコット(兵士)
 番兵等
 ミード將軍(グラント將軍の麾下)
 ソーン大尉(ミード將軍の副官)
 ロバート・リー將軍(南軍司令官)
 紳士、淑女等
 警官等
 ジョン・ウイルケス・ブリス(俳優あがり、暗殺者)
 醫師

第一場

一八六〇年代の初期、イリノイ州スプリングフィールドに於けるエイブラハム・リンカーン家の客間。農業者ストーンと店主カフニイ、二人とも五十歳と六十歳の間の年輩、初春の暖爐の火の前に坐つてゐる。薄暮。然し、窓のカーテンは引かれてなし。兩人無言にてパイプをくゆらす。

ストーン (間を置いてから) エーブラハム。——男につけるいゝ名だなあ、何せい。

カフニイ さうだ。その通りだ。

ストーン (又間を置いて) エーブラハム・リンカーン。——わしは四十年も知つてゐる。——

曲つた事と來たらたゞの一度もしたことがねえ……さあて。(さう言つてパイプを暖爐の鐵格子で慎重に叩く。又間)

(ストーン入りて来る。暖爐をつけたリ、カーテンを引いたり忙しく働く)

ストーン 只今、ミセス・リンカーンがお戻りになりました。直ぐこちらへ参ると仰言つて御

座います。

カフニイ 有難う。

ストーン ミスター・リンカーンは多分まだお戻りになつとらんでせうな?

ストーン はい、まだで御座います、ミスター・ストーン。然し、もう永いことはございます

まいよ——お歴々のお客様方がおつつけお着きで御座いますもの。

ストーン スーザン、あなたの御主人が合衆國の大統領になるのをどう思ふかね?

スーザン きつと立派におやりになると存じますわ。

カフニイ 御主人はこのスプリングフィールドを出てね、スーザン、ワシントンに住まはなぐちやならんことになるのだがなあ。

スーザン 私達はワシントンがきつと好きになると、わたしは存じますわ。

カフニイ あゝ! それを聞いてわしは安心したよ。

スーザン ミセス・リンカーンは煙草をのむことは、どちらかと申しますと、おやかましいんで御座いますが。

ストーン なるほど、たしかに。有難うよ、スーザン。

スーザン 御主人は御承知のやうに、煙草をおのみになりません。それから、ミセス・リンカ

ーンはこの室につきまして特別に細かくお氣をお配りになります。

カフニイ 全くさうだつた。——親切によういつてくれたなあ、スーザン。(二人はパイプの吸ひ残しをはたき出す)

スーザン 尤も、世間では、御自分のお宅でなさる通りに他でもなさらないやうな殿方は感心出来なさいといふ方も御座いますが。(同女退場)

カフニイ (更に間を置いて、パイプを撫でながら) 今夜この家へ来る人達が使者として持つて来る口上はもうはつきりしてゐるとわしは思ふがね。

ストーン さうだよ、すつかり極つてゐるよ。大統領候補になつてくれいといふ頼みだらうよ。こいつは奴隸解放運動のために惨殺されたあのジョン・ブラウンが死んでゐるといふのと同時にたしかな事だ。

カフニイ わしはエーブラハムがブラウンについて考へてゐたことが何うも分らねえ。奴隸解放についてはこの二人は何れ劣らぬ熱心家だつたが、エーブラハムはジョンがこの運動に劍を以つて起つたのに賛成しなかつた。「悪い料簡だ」とか何んとか言つてゐた。自分達自身がいまひには、絞め殺されるに極つてゐることをやらかす氣狂ひ共が、世の中にはよくあるものなどとも話してゐたよ。

ストーン エーブラハムは、アメリカ合衆國を一丸として保つために全力を擧げて、憲法を守らうとするのだ。憲法といふものは正直な主人のやうなものでありたいと望んでゐる。あの人にはそれ以上の大切な望みは無いのだ。ワシントンに行つたら、大盤石その信念は動かないぞ。奴隸制度をやめさせる爲には、命を捨てても各州を説き伏せるに違ひない。だが、各州を説得し、奴隸反対の法律が出来るまでは、まだ出来てもゐない法律の名で暴力を使ふといふやうなことは絶対にしないだらう。あのジョンの襲撃事件をエーブラハムが呑み込めなかつたのもその爲だ。

カフニイ ジョン・ブラウンは立派な男だつたなあ。——自分と同様熱狂的ではあつたがわづか数名の同志と黒ん坊ら一掴みとで、數千名の奴隸を解放してやらうとして、あんな風な事件をし出かしたのは……

ストーン 立派な男だつた。彼が絞殺される時に言つた言葉も立派だつた——「友等よ、諸君は神と人道に對して大なる罪を犯してゐる。諸君は私を容易く處分出来よう。いや、私はもう殆ど處分されてゐる。だが、この問題はこれから先きに處分されるだらう——。この問題とは黒人問題のことだ。その終點(解決)にはまだ来てゐない。」——とかう言つた。私はその時そこに居合せたんだ。石垣の如く頑強といはれたジャックソン將軍もそこに居たが、歸つて了つ

た。大佐殿が一人ゐて指揮をしてゐた。首絞りが終ると、彼は「人類の總ての敵はかくして滅びたり」と叫んだ。だが、自分達が持つてゐる奴隷を失ひはせぬかと心配してゐた連中だけがそれを信じた。

カフニイ 人間をそんな風にして絞め殺すといふのは悪いことだ。ジョン・ブラウンについてはやり唄が出来てゐたな。(彼は静かに歌ふ)

ジョン・ブラウンの形骸は

墓の中に朽ち横たはる

されど彼の靈は

永久に進み行く……

ストーン わしも知つてゐる。(二人が一緒に、静かに歌ふ)

み空の星は同情深げに

又いと静かに見下しつゝあり

あはれジョン・ブラウンの

形骸横たはる墓の上を……

(一時して、リンカーン夫人入り来る。二人起立す)

リンカーン夫人 今晚は、ミスター・ストーン。今晚は、ミスター・カフニイ。

ストーン、カフニイ 奥様、今晚は。御機嫌いかが様で?

リンカーン夫人 どうぞ、お坐り下さい。(二人椅子に就く)

ストーン 奥様、今夜といふ今夜は、あなたにとり素晴らしい晩で御座いますな。

リンカーン夫人 左様です。

カフニイ 奥様、使者の一行は何時にこゝへ着くのですか?

リンカーン夫人 七時に着く筈です。(夫人は鼻をくんとさせ、周囲を嗅ぎ乍ら)まさか、エ

ーブラハムがこゝで煙草のみはしなかつたでせうね。

ストーン (起ち上り乍ら) 窓を明けませうか、奥様? 夕方などはえて鬱陶しくなるものでして。

リンカーン夫人 たしかに——三月はね。あなたは窓をいちらずにお置きなさい。わたし達は
この客間では喫煙いたしませんのです。

ストーン (元の椅子へ戻り) ご尤もさまで、奥様。

リンカーン夫人 皆さん、この客間では二度と喫煙せぬやうお願いしますよ。

カフニイ エーブラハムは、今夜の使者達に何んと返事するか、もう決めてるんでせうか?

リンカーン夫人 承諾するでせうよ。

ストーン さうお極めになつたのは大變結構でしたなあ。——さう申しちや何んですが。

リンカーン夫人 左様です。

カフニイ そして、奥様、あなたがさういふ風に御主人にお褒めになつたに違ひないでせう？

リンカーン夫人 あなたは、今夜は私にとり素晴らしい晩だと仰言つた。その通りです。ですから——今夜は素晴らしい晩ですから、私はいつもよりも多く申します。わたしは、一人の偉大な人と共に、今歴史の中へ入らうとして居るやうな気がします。なぜといひますと、私は誰よりもあの人が偉大であることを知つて居ります。このわたしは器量はわるく、口やかましく、それにわたしの氣質はあの人の寛大高邁な氣象といつてもソリが合つては居りません。そこを歴史は見逃さないで、きつと少し笑つて、「可哀さうに、エーブラハム・リンカーン」とでも書くでせうよ。それはそれで宜しい。ですが、それだけではありません。わたしはエーブラハムが進むべき時機と踏み留まるべき時機を、今までさうつと間違ひなく注意して來ました。わたしはこの國の動きをじいつと凝視、凝視て來ました。わたしがさういふ風にして學んだことは随分アメリカの國の爲になりませうよ。なにね、私のやうな婦人は他にも居ります——澤山居ります。ですが、その中で、私は僥倖なんです。私の仕事はイリノイ州以上に出て行きま

す。——こゝにゐるわたし達のうちの誰だつて想像出來ない廣い範圍へ伸びて行くでせうよ。

私はうちの貧乏時代に、あの人が何事に對しても考へて、考へぬけるやうにしてやりましたが、それが今かうして實を結ばうとしてゐます。主人をオレゴン州の知事にいつて來たことがありました。あの時行つてゐたらそれだけのことでお終ひだつたでせう。私がとめたんです。今度は大統領にいつて來てゐます。私はおなりなさいといひました。

ストーン 御免なさい、奥様、私ここで煙草をのんだことを御詫します。

リンカーン夫人 それは構ひません、サミエル・ストーン。たゞ、二度としないで下さい。

カフニイ 男の占める地位としては偉大な地位だ。ところで、共和黨がエーブラハムを大統領候補に指名することを、セワードはどう取ると、皆さんは考へるかね？

リンカーン夫人 セワードは野心家です。あの人は自分が指名されると豫期してゐます。然しエーブラハムはあの人の使ひ方を知つてゐます。

ストーン 民主黨が二つに割れてゐるといふことは、共和黨の大統領候補が間違ひなく選挙に勝つといふことでせうな？

リンカーン夫人 エーブラハムはさう申してゐます。

カフニイ ねえ奥さん、かうなると夢のやうですね。夕方などによくこの室に私が坐つてゐる

と、御主人が歸つて來られて、ひしやげた帽子が頭の後ろの方から落ちさうになつてゐて、而も上着のポケットに入りきれない書類がその帽子の中に入れてあつて、讓渡しのことか権利侵害のことか何かで御主人をだました奴のことを叱りとばすやうに獨りでぶつ／＼いひ乍ら、この室へ入つて來られたりした——ことなどを想ひ出すと、今その同じ人が世界中が見てゐる前でワシントンへ上つて行かれるといふのは信じられませんよ。

リンカーン夫人　主人に新しい帽子を買ひなさいと、何年わたしは口を酢つぱくして來たことでせう。

カフェニイ　私の店にニューヨークから着いた許りの特等品が澤山あります。エーブラハムは出發前に、私の中から一つ贈り物にするのを許してくれるんでせうね。

リンカーン夫人　承知するかも知れません。ですが、矢張り古い方をかぶるでせうよ。

ストーン　奴隸問題と南部諸州、これがエーブラハムが取り組まねばならぬ二つの大仕事だ。「その終點にはまだ來てゐない」——あのジョン・ブラウンがいつたことだ——「その終點にはまだ來てゐない」

(リンカーン入り來る。綠色が／＼つた古ぼけた山高帽を阿彌陀にかむり、顔は殆ど露出してゐる。上衣の大きな両方のポケットから書類がばみ出してゐる。彼はこの時五十歳、顔

はまだきれいに刺つてゐる。夫人をキッスし、客の友人等と握手する)

リンカーン　どうだね、メリー。どうだね、サミュエル。どうだね、チモシー。

ストーン、カフェニイ　今晚は、エーブラハム。

リンカーン　(かむつて來た帽子を脱ぎながら、又その内側から書類を取り出して引出しの中へ入れながら) ジョン・ブラウンといつたね。さうだ、ジョン・ブラウン。だが、あの方法でやるべきぢやない。それに、正しい事は誤つた方法でやるべきでない。——それは間違つたことをするのと同様だ。——若し我々が合衆國をこのまゝの形で守つて行かうとするのなら……

カフェニイ　さあ、わたし達はもうお暇せにやらん。なにね、二人でたゞ一寸お芽出たうを申しあげたんでして、——今夜あんたが大切な重い御返事をなさらにやらんのでね。

ストーン　わたしのやうに氣弱な人間はね、エーブラハム、その友達がこの地球上で一番偉い人の一人になり、そのイエス、ノーが何千何萬の人達の法律になるかと思ふと、何んだか自分ながら身がしまるやうな氣持だよ。

リンカーン　さういふ地位に選ばれるといふことは、人を氣弱にさせるものだよ、サミュエル。弱い氣持になればこそ、その地位に就けといはれても、誰でもノーといはざるを得ないのがほんたうだ。この國民の大統領になる——到るところ人々の心は苦惱で一杯な時に。これは

骨身にこたへる仕事だ。憎み、あざ笑ひ、それから輕蔑すべき連中とも取つ組みもせねばならず、而も結局は多分何事もほんたうには出来ないでね。だが、私は行かねばならない。さう、有難う、サミュエル。有難うチモシー。メリー（夫人に向ひ）、二人が出る前に甘露酒を一寸一杯。（リンカーン戸棚の方へ行く）あの女の子（スーザンのこと）、どうしやがつたか。（酒が見つからぬので、じれる。扉の方を向いて）スーザン！ スーザン・デツディングトン！ あの甘露酒野郎はどこかい？

リンカーン夫人 宜しんですよ、エーブラハム。あれに外へかたして置くやうに言つといたんです。——戸棚は書類でぎつしり一杯ちやありませんか。

スーザン （瓶とグラスを幾つか持つて入つて来る） 誠に相すみませんで御座います。私は奥様から言ひつかりまして——。

リンカーン いゝんだよ、いゝんだよ、スーザン、あちらへ行つといで！

スーザン はい、有難う存じます。（退場）

リンカーン （酒を注ぎながら）あんだ達のやうなウイスキー黨の悪者共には貧弱なもてなしだ。たゞ氣は心といふものでな。

ストーン どういたしまして、エーブラハム。

カフニイ あんたの幸先きを祝はせて下さい。エーブラハム。お芽出たう、奥様。神よ、アメリカを護り給へ！ サミュエル、君のため乾杯して、合衆國とエーブラハム・リンカーンの幸福を祈る。（カフニイとストーン飲む）

リンカーン夫人 お二人、有難う。

リンカーン サミュエル、チモシー。——わたしは正直な友等の期待に反かざらんと誓つて飲む。メリー、親切な心の爲に。それがわたしには絶えず必要だ。——わたしは一種妙な心配性だからね。うむ、神よアメリカを護り給へ！（彼と夫人同時に飲む）

ストーン ではお休みなさい、エーブラハム。お休みなさい、奥様。

カフニイ お休みなさい、お休みなさい。

リンカーン夫人 お休みなさい、ミスター・ストーン。お休みなさい、ミスター・カフニイ。

リンカーン お休みなさいサミュエル。お休みなさいチモシー。ほんとに、よく来てくれて有難う。（ストーン、カフニイ出て行く）

リンカーン夫人 あの人達とこゝでお會ひになつた方がよう御座いませう。

リンカーン 宜しい。七時五分前だ。メリー、あの件についてはあんたは確かか？

リンカーン夫人 確かです。あなたもさうでは御座いませんか？

リンカーン 我々は奴隷については制限をしようと思つてゐる。南部は反對するだらう。合州聯合を破つて脱退しようとするだらう。それは許すことは出来ない。合州聯合を捨てれば、アメリカは崩れて了ふ。それを救はうとするのは、血を流すこともならう。

リンカーン夫人 あなたがなさらなければ、それを皆誰がいたしますか？

リンカーン 誰もない。わたしはそれを知つてゐる。

リンカーン夫人 それなら、なさい。

リンカーン する。

リンカーン夫人 (間を置いて) この帽子はあなたのお顔汚しですよ、エーブラハム。あなたはわたしのいふことをちつとも取りあげません。そして、構はないと思つていらつしやる。あなた程の人になつたら、少しは體面といふこともお考へになるべきです。

リンカーン 全くだ。わたしはつい忘れる。

リンカーン夫人 あなたは忘れはいたしません。あなたはたゞお氣をつけないといふだけの事です。サミュエル・ストーンはこの室で喫煙して居りました。

リンカーン あの男は不注意でね、氣の毒な奴だ。

リンカーン夫人 その通りです。その不注意のいゝお手本を、あなたがあの男に見せてゐるの

です。あなたは、あの男が私の客間を毒臭くしようとしまいと一向構はないでおいでよ。

リンカーン そりや勿論わたしは——。

リンカーン夫人 いゝえ、あなたは一向お構ひになりません。あなたのお頭は他のこと一杯で、わたしの方のことなどはちつともお考へになりません。わたしには御近所の衆といふものがございます——あなたには無いといたしましても。

リンカーン さあて、あなたの御近所衆は又、わしの御近所衆といふことにならないかなあ。

リンカーン夫人 それなら、なぜも少し風采といふことにお氣をつけないのです？

リンカーン たしかに。氣をつけねばいかん。

リンカーン夫人 新しい帽子をお取りになりますか？

リンカーン あゝ、それは一つ考へねばなるまい。

リンカーン夫人 いつ？

リンカーン 一日二日のうちに——その中にね。

リンカーン夫人 エーブラハム。わたしは人様が思つてゐるよりはいゝ氣象を持つてゐるつもりですよ——。

リンカーン あんたは持つてゐるよ。またそれを必要とするよ、正直なところ。(ニューザン入り)

来る)

スーザン お客様方がお見えで御座います。

リンカーン夫人 わたくしがそちらへ参ります。

スーザン 御主人はハンケチが御入用では御座いませんかしら？ 今朝はお持ちになりませんでした。

リンカーン 今はいらないよ、スーザン。

スーザン 失禮で御座いますが、一つお持ちいたしました。(彼女はそれをリンカーンに手渡し、退場)

リンカーン夫人 あの人達をこゝへ連れさせます。エーブラハム、わたしはあなたを信じています。

リンカーン わかつてる、わかつてる。

(リンカーン夫人出て行く。リンカーンは壁に懸けてある合衆國の地圖の前まで静かに行き、それを凝視しながら無言で起つ。一時してからスーザンが扉口へ来る)

スーザン どうぞこちらへ。

(彼女が案内して来たのは——派手な風をした景氣の好さうな商人ウイリアム・タツカ

1. 小柄で機敏さうな辯護士ヘンリー・ヘインド。被せた牧師イライアス・プライス。某共和黨新聞の編輯長ジェームス・マツキントツシ。スーザン出て行く)

タツカー ミスター・リンカーン、私はタツカーです——ウイリアム・タツカー。(彼は同伴者等を紹介する) ミスター・ヘンリー・ヘインド——あなたと同じ職業です、ミスター・リンカーン。

——オハヨオ州における法曹界の第一人者です。それから、ペンシルヴァニアのミスター・イライアス・プライス、同君の説教を或はお聴きになつたかと思ひますが。御存知のジェームス・マツキントツシ。私はシカゴからまゐりました。

リンカーン 皆さん、どうぞ宜しう。どうですね、ジェームス君。皆さん、お坐り下さい。

(一同テーブルを圍んで坐る)

タツカー 私はこの代表團の團長たる名譽を持つて居ります。我々はシカゴの共和黨大會から差し向けられて参つたもので、あなたが合衆國大統領の共和黨候補たることをお引受け下さるか何うか、それを訊きにまゐつたのです。

プライス 民主黨は兩分してゐますし、目下の状況では、これは單に共和黨の候補者たるべく招請するといふよりも、それ以上のもので、大會もさう諒解して居ります。この候補に指令されるといふことは大統領に選舉されることと殆ど同じです。

リンカーン 皆さん、わたしはあなたの方の中でお一人だけにしか知られて居りません。私がこの大任を引受ける爲には、私には幾つかの不資格条件のあることを皆さんは御承知ですか？

ハインド あけすけに申しまして、その點も充分もう論議されて居ります。

リンカーン 何んといふか——人間の持つ或る種の上品さ——さういふものを私は缺いてゐます。ワシントンでは全然それを無視出来ません。

タツカー そのことも話が出ました。然し、ミスター・リンカーン、今日の時勢は、あなたが持つて居られると期待される他のいくつかの資格を犠牲にしてまで、お上品といふ資格などを考へるには、餘りに急迫して居り、危険を孕んで居ります。

リンカーン セワードやフツクは何れも多大の經驗を持つてゐますが。

マツキントツシ フツクには強い支持がありません。セワードについては、彼の分別の能力について疑があります。

リンカーン この話を進めるには、どうぞ誤解の無いやうにして、お願いいたし度い。私は、良心に恥ない限り穏和なやり方を目がけます。だが、皆さん、私は大層頑固な男です。若し南部が奴隸の繼續を固執し、聯邦から脱退の權利を主張するなら——それは御承知の通りやり兼ねない——そしてそれに対する決定が私にあるとなれば、それは必要なら血を以つ

てする徹底的抵抗を意味します。この點に關し、皆さん各自のお考をはつきりして置いて頂き度い。

プライス それを決定するのはあなたです。そして、我々はあなたが公正な人であることを信じてゐます、ミスター・リンカーン。

リンカーン セワードとフツクは部下として持つには、どつちもむづかしい人物ですね。

タツカー ですが、矢張り部下として持つてありますまい。この二人の上に立つには、あなた以上の人は考へられません。

リンカーン ジエームス、共和黨の新聞は皆、私をどんな事があらうと主義として援けてくれるだらうか？

マツキントツシ 我々が喜んでついでに行く人は、あなた以外にはありません。

リンカーン 若しあなた方がわたしを送り出したら、南部はあなた方の指名に對してあざ笑ふだけでせうよ。

ハインド 彼奴等の嘲笑なんぞ、あなたは齒牙にもかけないだらうと我々は思つてゐます。

リンカーン 私はどんな人からの冷かしても平氣です。——私はそれに慣されて來てゐます……神様が作つて下さつたどつちかといふと少々妙なこの恰好のためにね——まあ冗談をい

へばです。だが、この奴隷問題は長く、深く、^厳しいものとなるでせう。私はそれを知つてゐる私を推薦して下さるなら、諸君、私はこの問題にかけては一切妥協しないといふことを、御承知でなければなりません。憲法の手続きにより適当な時機に奴隷廢止が實現するなら、結構。私はそれを望む。だが、我々は廢止を強制しないと同時に、奴隷を公認することをしないし、又現在の枠を一ヤードでもゆるめることもしない。この決意は私の血の中にあるのです。少年の頃、私はニューオリアンズへ旅しましたが、そこで彼等が鎖でつながれ、打たれ、蹴られるのを見ました。——泥棒犬を蹴るにしても、人間として恥かしいやうな蹴り方で。それから、ひとりの若い娘が、室の中をそつちこつちと、せり合つてゐる連中の満足のゆくまで、引廻はされるのを見ました。その時私は自分に言ひました。——「若しもいつかこの奴隷制度に私の手で一撃を加へる日が來たら、があんと一撃喰はしてやらう」と。(聞)

皆さん何か條件はありますか？

タツカー 何んにもありません。

リンカーン (立ち上りながら) 家内も私も、夕食を御一緒にして下さるやうお願いします。

タツカー それは大層御親切で。ところであなたの御返事は、ミスター・リンカーン？

リンカーン あなた方がお出でになつた罪は、あなた方は私をまだ御存知なかつた。ミスター・

タツカー、あなた方は、私のゐないところで何かお話ししたいことがあるかも知れずまい。

タツカー いや、何あんにもありません、確かに——。

リンカーン 家内に早く夕食を用意させませう。一寸一分間許り失禮します。(出て行く)

タツカー さあて——我々はもつと器量のいゝ代物を擇ぶことは出来たかも知れんが、もつと質の良いのを擇ぶことは出来なかつたらうと思ふな。

ハインド 彼は偉大な判事となるだらう——君達が検事になつて告發沙汰さへしなければね

え。(註、「君達がゐては誰でも耐らないが」といふ意味の冗談)

ブライス 私は多くの人に向つては物を教へるだらう。然しあの人には訊くだらう。

タツカー 彼はまだイエスカノーか我々に返事してゐない。何故彼はこんな風に座を外すんだらう——承諾するに極つてゐることが、まだ極つてゐないかのやうにさ。

ハインド 多分獨りになつて先づ考へて見たかつたのだらう。

マツキントツシ さうでは無い。だが、彼のやつてゐることは正しい。エーブラハム・リンカーンは人の胸中を大抵の人よりも深く観る。彼は今日といふ日は、我々にとり一生涯の記念になる日だといふことを知つてゐる。ところで、彼の眼の前では、諸君のうちで誰一人だつて、この室へ入つて來た後で彼に都合のわるいことは思ふまゝにはいへない筈だ。だが、かうして座

を外されれば、お互に楽な気持でもう一度自分の考へを試めして見もし、もつと自信を以つて話し合ひ、その上で何もためらふことがないと分れば、すつとさつぱりした気持で事を運ぶことが出来る——といふことを彼はちやんと察してゐるのだよ。我々の間に何か疑ひがあるかね？

タツカー

ハインド

ブライス

いや、決して。

マツキントツシ

ちや、ミスター・タツカー、彼が戻つて來たらもう一度訊いて見給へ。

タツカー

訊かう。(一時、彼等は沈黙の儘で坐つてゐる)

(リンカーン再び入つて來り、元のテーブルの位置へ就く)

リンカーン

御返事をおくらせてゐるのを、失禮な男だかどうかと思はないで下さい。一度この御返事をすれば、それはこの國のために非常に善いことか、非常に悪いことか、どちらかに極まります。かうした重大な事は、誰でも我れと我身に二十回も問ひ訊して見るべきです——二十回たしかだと思つたにしてもです。諸君のうちどなたでも、何も條件はありませんか？

タツカー

何もありません。お招きする次第は、さつき我々がこゝへ坐つた時に、私が申した

通りです。更に私から附け加へさせて頂けば——我々は、我々全部は、これ以上の適任者はないといふ方に對してお招きの使者となつたことを我々は誇りいたします。

リンカーン

皆さん、お禮を申します。私はお受けいたします。(リンカーン立ち上り、他の一同も同様。彼は扉まで行き、呼ぶ)スーザン。

(沈黙。スーザン入り來る)

スーザン

はい、ミスター・リンカーン。

リンカーン

この方々を奥様のところへ御案内なさい。私は直ぐ後から行きます。

(四人はスーザンと共に行く。リンカーンは暫く沈黙のまま立つ。再び地圖のところへ行き、凝視する。それから、テーブルの傍へ戻り、ひざまづく。放心状態の如くでもあり、深考するが如くでもある。——兩手に顔を埋めて)

——幕——

第一場

十ヶ月後。ワシントンに於けるセワードの室。國務長官ウイリアム・H・セワードは、合衆國各州長官代表ジョンソン・ホワイト及びカレブ・ジェニンクスと共にテーブルに向つて坐つてゐる。

ホワイト　南部に於てはですね、ミスター・セワード、この事件を想像力を以つて處理し得るのは、ワシントンでは貴君だけだといふのが一般の感じです。かう言つたからとて、大統領に對して敬意を失してゐるのとは思ひません。

セワード　貴君の御好意を感謝します、ミスター・ホワイト。だが合衆國は合衆國です。——この事實はいかんとする事は出来ぬ。我々は明白な事實に直面してゐます。南部の七州は既に脱退を宣言しました。大統領は——私も同僚等も——そんな風にしてこの國をぶちこすのはアメリカの崩壊を意味するものと見ます。

ジェニンクス　だが總てのことは妥協により行はれるものです、ミスター・セワード。フォート・サンターから要塞兵を引き揚げる。さうすれば南部のボーリガード將軍もこれ以上行動せぬやう訓令されるだらうし、南カロライナは州の權力を認められたものとして満足し、多分は他州に率先して脱退を考へ直すといふことになるでせう。

セワード　それは何んとも素晴らしい——そして人道的でもある——提案です、確かに。
ホワイト　これを實現することにより、貴君は内亂からこの國を救ふ救世主になるでせう、ミスター・セワード。

セワード　大統領は就任演説でフォート・サンターを守る決心を述べてゐる。それを變更するやうに説得することはむづかしいでせう。彼は一度決定したことは仲々變へない。

ホワイト　彼を頑固だといふ人達もある。だが、最も簡単な行き方で、量り知れぬ災害を避けることが出来る、うまく話を持つて行けば、いかに自分の威厳にかゝはるからとて、従はな
い譯にはいかないでせう。私は何もかもはつきり話す——今ははつきり物をいふ可き時代です。ミスター・リンカーンは間違ひなく立派な素質を持つた人です。二度彼と會つて話しましたが、その都度深く印象されなかつたとはいへません。さうだね、ミスター・ジェニンクス？

ジェニングス さうだ。

ホワイト だが、重大な國務に關する彼の經驗といふ點からいへば、貴君のと比べて比較にならないやありませんか、ミスター・セワード？ 彼は重大なことについては閣僚中の或る何人かの——といふよりも私にいはせれば或る一人の意見に、頼るべきだといふことは知つてゐる筈です。

セワード 我々は注意深く行動せねばなりません。

ジェニングス 尤もです。誰だつて就任勿々の時期には神經質になるものでしてね。

セワード 勿論、私が大統領を支持することは、いふまでもありません。

ホワイト おほ、それは當然です。だが、他人は持つてゐない、あなただけが持つて居られる

知識を大統領に注ぎこむ——それ以上に値打ちのある支持がありませんか？

セワード 大統領の頭の中は、今奴隸問題で一杯なのです。

ジェニングス その頭の中をきれいにしてやるんですね。奴隸問題は何んでもありませんだ。

彼に説いて、フォート・サンターから兵を引き揚げる。さうすれば、奴隸問題はテーブルを圍んで解決出來ます。貴君も御承知でせうが南部に於てすら、奴隸廢止には相當の支持があります。若し奴隸賣買が或州で許されるとしたところで、内亂の慘害に比べたら、どれ程のこと

りませう？

ホワイト 南部各州は大した熱を以つて脱退しようとはしてはゐないと、我々は見てゐます。

彼等はたゞ脱退する權利を確立しようとしてゐます。フォート・サンターから撤退してそれを認めてやるがよい。その結果としては何も起きはしません。たゞ精神的なるもの、獨立。——

それはちつとも差支へないことで、合衆國聯合に對して本質的には反くことでも何んでもありません。

セワード 私は公然とは何んにもいへないといふことは、あなた方は勿論おわかりですね。

ジェニングス 今我々が申したことは全部非公式の私案に過ぎません。

セワード だが、私は不賛成ではないといふことだけは申せませう。

ホワイト さうに違ひないと我々は思つてゐました。

セワード 私の發言は勢力無きに非ずです。

ジェニングス 發言されることによつて、あなたの名聲は益々高くなります。ミスター・セワード。

セワード ところで、この會見については諸君は何んにも言はないで頂きたい。——報告をされるのはいいが、それも當然極秘で。

ホワイ ト 我々を御信用下さい。

セワード (他の二人と起ち上りながら) ちや、今日はこれで失禮します。

ホワイ ト あなたが極めて寛大なお氣持でこの重大な仕事を取り計らつて行かうとしておいでになるのに對し、我々は深く感銘いたします。御免下さい、ミスター・セワード。

ジエンニングス それから私——。

(外から扉をノックする)

セワード はい、お入り。

(書記入り来る)

書記 大統領が階下からあがつてお出でになります。

セワード 有難う。(書記去る) これは一寸工合が悪かつた。何んにもいはないで、直ぐに出ておいでなさい。

(リンカーン入り来る。頬と頸に黴をはやしてゐる)

リンカーン お早よう、ミスター・セワード。お早よう、皆さん。

セワード お早よう御座います。大統領。御兩君、わざわざお訪ね下さつて有難う御座いました。左様なら。(彼は扉口の方へ歩む——二人のため扉を明けるつもり)

リンカーン この紳士諸君は十分間ほど私のために、時間をお割きになつて下さいますまいか？

ホワイ ト それは一寸——。

ジエンニングス 何んならどうぞ——。

リンカーン わたしは機會さへあれば、我々の南部の友人諸君と意見を交換したいのです。五分間でも私は非常に啓發されるでせう。どうぞお坐り下さい——トミスター・セワードがお許し下さるなら。

セワード とんでもない。私は座を外しませうか？

リンカーン 座を外す——だが、なぜ？ 話の次第ではわたしは君の支持を必要とするかも知れん——全幅の支持は得られないにしても。お坐り下さい、皆さん。(セワード、リンカーンの爲めに椅子を動かす、一同着座す) 御兩君は政府に對する南部の意見書を持つておいで——か？

ホワイ ト さあ、それを持つてゐるとは申せません。

リンカーン 意見書無し？ あゝわたしは少し穿鑿好きに過ぎましたかな？

セワード この兩君は何か溫和な意見を、それを探したがつて居られます。

リンカーン 御兩君は溫和な意見を持参して來られたのでせう。私はそれに対して最も喜んで傾聴するものです。

ジェニングス これはデリケートな件でありましてね、ミスター・リンカーン。我々の訪問は非公式なものでして。

リンカーン 全く、全く。ですが、我々はお互の心を知り合ふことにより、何も失ふことはありませんから。

ホワイト 我々が來た目的を大統領にお話ししませうか、ミスター・セワード？

リンカーン さう願へればどんなに有難いか。お話をきいて私が諒解出来なかつたとしても、

ミスター・セワードはきつと私にもわかるやうに説明して呉れるでせう。

ジェニングス 實はこんな時機尙早の段階では、あなたを煩はすだけのものはまだ無いと我々は思つて居りました。

リンカーン 何んの時機尙早の段階？

ジェニングス そのう——

セワード この兩君は、平和のために心配されて、意見を具申するために最もよい通路口をたゞ探して居られるだけなのです。

リンカーン 誰に向つて？

セワード 政府に。

リンカーン 政府の頭はこゝにゐる。

ホワイト 然し——。

リンカーン こうれ、諸君、それは何んですか？

ジェニングス フォート・サンターのことで、大統領。フォート・サンターから撤退したところで、それは政府の弱腰とは誰も見ないでせう。我々は、南方は實際は脱退を希望してゐないと信じてゐます。たゞ南部は自主的に決定する権利を確立しようと欲してゐます。

リンカーン 南部は奴隸制度に對し政府公認のスタンプを欲しがつてゐる。それは遣れませんか。ホワイト それは決して要點ではありません。南部には奴隸反對の法律はありません。

リンカーン 法律は輿論から來ます、ミスター・ホワイト。南部はそれを知つてゐます。

ジェニングス 大統領、失禮ながら、あなたは問題を御了解になつて居られません。

リンカーン ミスター・セワードは了解してゐますか？

ホワイト して居られると我々は思つてゐます。

リンカーン あなた方は間違つてゐる。ミスター・セワードは了解はしてゐない。なぜとい

ふに、あなた方は同君に了解させようとして居られないから。私はあなた方を責めるのではない。あなた方は最善に向つて行動してゐると思つて居られる。あなた方は正しい主張を持つてゐると思つて居られる。然し、あなた方の爲に、この問題をわたしから言つて見ませう。——赤裸々に言つて見ませう。この國の多くの人々は奴隷廢止を希望する。多くの人々はしない。この際は、私はその善惡に就いては何んにもいひますまい。だが、誰でもが——それを欲すると否とに拘はらず——早晚廢止は来るだらうといふことを知つてゐる。何故南部は脱退を申し出すか？ 奴隷廢止が来るだらうと思ふからであり、それを避けたいからだ。南部はそれ以上にも欲してゐる。奴隷制度の根據を増大する權利を欲してゐる。奴隷制度については我々全部が責任だ。然し、我々北部では今迄のやり方を進んで是正しようとして來た。諸君はしてゐない。そこで、諸君は合衆國から脱退し、自分等だけの法律を作らうとする。だが、諸君はそれに対する抵抗に對しては無準備であり、又諸君は抵抗を欲してゐない。そして、諸君は最初の危機を乗り切り、我々を折れさせたら、我々が後で再び武力を以つて諸君に反對することは輿論が許さぬだらうと考へ、結局は脅迫によつてこの奴隷問題を自分等の思ふままに片づけて行けると、かう思つて居られる。これが、諸君が考へて居る有りの儘の姿だ。諸君はミスター・セワードに向つて、さういふ風には言はれなかつた。が、實際はさうだ。そこで私の返

事を差し上げよう。諸君、これは隅つこの方に隠して置くべき事柄ではない。これは解決されねばならない。私は先日フォート・サンターは出来る限りは守り通すと言つた。私は、それが何を意味するかを知つてゐるから、さう言つた。何故諸君はこの要塞を包圍してゐるのか？ 假りに、諸君の言はれる通り、攻撃する意志はないが、脱退の權利を確立する爲めだとする。然らば、何故その權利を確立しようとするか？ それは、我々は奴隷制の延長を許さぬであらうし、やがてはこれを廢止するだらうことを諸君は知つてゐるからだ。諸君は私のいつたことを否認することは出来ずまい。又、他に説明はない筈だ。

ジェンニングス 一分かりました。あなたは好きだけ自由を強制なさるがいでせう。我々は奴隷制をどういふ風に強制するかよく氣をつける。

リンカーン それ以上の言ひ現はし方はありません、ミスター・ジェンニングス。それが合衆國の意義です。人民の權利のために存在するのが合衆國制です。それが土臺なのであつて、苟くも正直な人間は誰でもこれを護らねばならぬといふのもその爲めです。この點についてはつきりして置いて頂き度い。若し、戦争が起きるとしても、奴隷問題のためではあり得ない。若し南部が合衆國制に對し忠實なら、奴隷の法制化を立憲的手段で戦ふことも自由だし、又若し出来るものなら、思ふ通りに勝ちとれる。若し南部が脱退の權利を要求するなら、その

時は、この國の崩壊を救ふために、又我々の祖先が我々の爲めにこの合衆國を作つてくれた時に各州が誓つた権利を護るために、戦争が残された唯一の道でせう。我々は合衆國制を破らぬであらうし、又諸君に破らせはしませぬ。諸君の手の中に、私の手の中ではなく、内亂戦争といふ巨大な問題が委ねられてあります。誰か侵略者でなければ、争ひといふものは起り得ない。私は取つ組み合ひは大嫌ひだ。我々は敵ではなく、友達だ。我々は敵であつてはならない。感情は張り切つてゐるとしても、我々の友愛の繩を斷ち切らせてはならない。これが我々の返事です。南部の人々に話して下さい。話して下さいませうか？

ホワイト あなたは決心しておいでだ？

リンカーン どうぞ南部の皆さんに話して下さい。

ジェンニングス 御希望通りにいたしませう。

リンカーン ポーリガード將軍に歸還命令を出すやう南部へ懇請して下さい。あなた方はこれから直ぐ電報を打つことが出来ます。さうして下さいませうか？

ホワイト 御希望なら。

リンカーン 熱望します。ミスター・セワード、書記を一人兩君のためにつけてあげて下さい。それからその電報には返事をとるやうに。

(セワードベルを押す。書記一人入り来る)

セワード この方々に専用電信線をお使はせなさい。お前はお兩人の御用を承はることにな

せよ。

書記 はい、長りました。

(ホワイトとジェンニングスは書記と共に出て行く。一時の間、リンカーンとセワード沈

黙。——リンカーンは室内を沈思しつゝ歩き、セワードはテーブルの傍に立つてゐる)

リンカーン セワード、これはならぬよ。

セワード まさかあなたは私を疑はれは——。

リンカーン しない。だが、お互に隠しだてはよさう。それはどれほど賢明でゐらせられたか、どうか誰もいへまいが、神様は私をこの國の指導者の地位に導かれた。——ワシントン自身に托されたよりも廣大な仕事を前に置かれて。私が内閣を作つた時、君は私が最初に撰んだ男だ。私はそれを後悔してゐない。又將來も決してしないだらう。だが、記憶しなさいよ。——信頼が信頼を生む。あれは何んだ？ どうしてあの人達は私に會ひに来なかつたのか？

セワード 彼等は私の口からあなたにいふ方が、彼等からいふよりも効果があると思つたのです。

リンカーン 君の口から何を？

セワード サンターに就いての思慮分別です。

リンカーン 思慮分別？

セワード 惨目なことです——戦争になるかも知れんと考へることは、

リンカーン それはさうだ。君はわたしがそれに就いて、君よりも感じが鈍いと思ふかね？

戦争は不可能にせねばならぬ。それには、その原因を根絶して始めて不可能に出来る。サンター要塞から兵を引くといふことは、それとは何んの關係もないといふ事が君には分らないかね？ 若し、この國の半分が合衆國制を否認する權利を主張したとしたら、この主張は我々の國體擁護者の眼から見れば、戦争の一原因になる——但し、合衆國制は人間生活の正しい法則なりとして人民の同意によつて出来たものでなく、偽物であると考へるなら別だが。我々が若しフォート・サンターから撤退するとしても、戦争となる原因を根絶することには決してならない。我々は南部の人々に、脱退は彼等の信任せるものを裏切るものであることを説得することによつてのみ、戦争の原因を根絶出来る。神よ、願はくは我々にそれが成就出来ますやうに！

セワード さういふ風に國民に向つてすつかり明かにする上に、多分、いくらか臆病だつたのではありませんか？

リンカーン 臆病？ 而も君はさつき思慮分別といつてゐた。

セワード わたしは、我々の政策が、多分十分には、明確にされてゐなかつたといふのです。

リンカーン だが、我々が今までに決定して来たことには總て、君は参加して来たではないか？ 自分自身を欺き給ふなよ。君は一息にわたしを無分別だといひ、そのすぐ後から臆病だと極めてかゝる。あの二人がよく気がついて、ポリーガードを呼び戻す可能性がある間は、彼等を怒らせるやうなことは何んにもいふまいと私は決心した。それを君は臆病だといふかね？ その時にいゝ分別といつてよかつたものを臆病と呼んだ君が、飛んでもない時に臆病を分別だといつて奨める。セワード、君はわたしを單純だと思ふかも知れないが、わたしには君の心は時計の中の動きを見るやうにはつきり見える。君は、君の熱心、行政の経験、人を愛する性情等で、この政府に素晴らしく色々寄與することが出来る。わたしが單純な頭を持つてゐると考へて、それを臺無しにしないで下さいよ。

セワード (ゆるりと) 左様です、わかりました。私は總てにつきまして、はつきりと考へが行き届いて居りませんでした。

リンカーン (ポケットから書箋を取り出し) 君が送つてよこした文書がこゝにある。「大統領の

参考に供する爲めの卑見二三。大英帝國……ロシア……メキシコ……政策。この件は大統領自身決定するか、或は閣僚の誰かに廻はすべきなり。これは小生の所管外なり。然し、余は之を回避せんとも、責任をとらんとも求めず。」

(沈黙の間。二人は言葉無く互に見合ふ。リンカーンその紙片をセワードに渡せば、セワードは一瞬それを掴み、引き裂き、それから紙屑箱に投げ入れる)

セワード お宥しを願ひます。

リンカーン (彼の手を取りながら) 君、勇氣があつたなあ。

(秘書ジョン・ヘイ入り来る)

ヘイ アンダーソン少佐から使者がまゐつて居ります。サンター要塞から眞直ぐに乗り通して参りました。

リンカーン 私の室へその使者を連れなさい。いや、こゝへ連れて來なさい。

(ヘイ去る)

セワード これは何ういふ事なんでせう？

リンカーン どうも少し氣がかりだ。(ベルを鳴らす。書記入り来る) この家に閣僚は誰か他にゐるかね？

書記 ミスター・チエーズとミスター・ブレイアがおいでになると存じます。

リンカーン 私から宜敷くといつて、それから、出来れば直ぐこゝでお二人にお目にかゝり度いがあるだらうかといひなさい。その他の閣僚誰もお前が探したら、同じ言傳てをいひなさい。

書記 長りました。

リンカーン 我々は何れとも決めねばなるまい、今——今。(汗を流し塵埃にまみれた使者を、ヘイ案内し來り、退出す) アンダーソン少佐からか？

使者 はい、左様です。口上が御座います。

リンカーン 君の證明書は？

使者 (リンカーンに紙を渡しながら) こゝに御座います。

リンカーン (それを一瞥しながら) それで？

使者 アンダーソン少佐は政府に對する義務を遂行いたします。少佐は糧食及び増援無しに要塞をもう三日間支へ得ます。

(リンカーン呼鈴を押し、第三の書記の入り来るまで待つ)

リンカーン ミスター・ホワイトとミスター・ジェニングスがもう返事を受けとつたかどう

か見て來なさい。ミスター・—— 何んといつたかな？

セワード　　ホーキンス。

リンカーン　　ミスター・ホーキンスがお二人についてゐる。それからミスター・ヘイに來るやうに。

書記　　はい畏りました。

(同人退出。リンカーンはテーブルに向ひ坐り何か書く。ヘイ入り來る)

リンカーン　　(書きながら) ミスター・ヘイ、あなたはスコット將軍はどこに居られるか知つておいでか？

ヘイ　　本部だらうと存じます。

リンカーン　　これをあんな自身將軍へ持つて行き、御返事を貰つて來なさい。

ヘイ　　はい畏りました。

(彼、手紙を受けとり退出)

リンカーン　　要塞の状況は大變悪いかな。

使者　　少佐は三日と申されます、はい。私達の仲間なら二十四時間と申したでせう。

(屏にノックの音)

セワード　　はい。

(ホーキンス入り來る)

ホーキンス　　ミスター・ホワイトは電信で通牒を今受けとりつゝあります。

リンカーン　　請け終つたら直ぐこゝへ來られるやうに言つて下さい。

ホーキンス　　はい畏りました。

(同人退出。リンカーン遠くの方の扉まで歩きそれを明け、使者に向つて——)

リンカーン　　こゝへ入つて待つてゐて呉れませんか？

セワード　　煙草を吸つて宜敷うございますか？

リンカーン　　いゝとも、いゝとも。(セワード煙巻に火をつける) 三日間。若しホワイトへの電

信が駄目だしたら。——三日間。

セワード　　然し、軍事上の必要から、我々は撤退しなくてはなりません。

リンカーン　　何故ホワイトは來ないのだらう？ (セワードは窓のところへ行き、それを上に明け放

ち、街を見下しながら立つ。リンカーンはテーブルの傍に立ち扉の方を見つめる。間を置いてノックの音) お入り。(ホーキンス、ホワイトとジェンニングスを案内し來り、退出。セワード窓を閉める) それで？

ホワイト 残念ですが、彼等は譲りません。

リンカーン あなたは私がいつた通り告げたのですね？

ジェンニングス 何もかも。

リンカーン 危機一髪となりました。

ホワイト 彼等ははつきりしてゐます。

(リンカーン室の中を一步二歩と沈思徐行し、再び元のテーブルの傍に立ちながら)

リンカーン 少しの餘地も残してゐませんか？

ホワイト ちつとも——残念ながら。

リンカーン それは重大な決定です、恐しいほど重大な。兩君、有難う。御機嫌よう。

ホワイトとジェンニングス 御機嫌よう、皆さん。(二人退場)

リンカーン あゝ、セワード、我々は非常な勇氣、非常な信念が必要だ。(彼、ベルを押す。第

二の書記入り来る)私の傳言を皆に傳へたか？

書記 はい、お傳へいたしました。(同入退出)

て居られます。他の閣僚方は直ぐにお見えになります。

リンカーン その方々に即刻来るやうに傳へなさい。それから、ミスター・ヘイが歸つたら直

ぐにこゝへ来るやうに。

書記 はい、承知いたしました。(同入退出)

リンカーン (間を置いて)「この世を渡るに、人の上にも潮時あり……」君はシエークスピアを

讀むかな、セワード？

セワード シエークスピア？ いゝえ。

リンカーン あゝ。(財務長官サルモン・チエーズ、通信長官モントゴメリー・ブレイア入り来る)お

早よう、ミスター・チエーズ、ミスター・ブレイア。

セワード 皆さん、お早よう。

ブレイア お早よう御座います、大統領。如何です、ミスター・セワード？

チエーズ お早よう御座います、大統領。何か急なことでも？

リンカーン 皆んな坐りませう。(一同テーブルに近く椅子をひき寄せる時、他の閣僚サンモン・カ

メロン、カレブ・スミス、バーネット・フック、ギデオン・ウエルズ入り来る。彼等テーブルに向つて坐

る前後に、挨拶を交はす)諸君、我々は危機に直面しました。——それは最も運命的な、またこ

の國の今までのどの政府も直面したことのない重大なものです。簡単に説明いたさせう。ア

ンダーソンから今こゝがた使者が來ました。彼はフォート・サンターを最大限三日間——こつち

から増援と糧食を送らなくても——支へ得ます。

カメロン 兵數は？

リンカーン 數分のうちに、スコットから所要兵數をわたしに知らせて來ませう。

ウエルズ 所要の兵數が無いとすれば？

リンカーン その時は糧食補給の問題だ。それも役に立つほど十分には出來ないかも知れん。

問題は、我々が出來る限りの努力をするか否かだ。

フツク 若し我々が全部撤退するとしたら、それがきつかけとなつて、南部は自分等の権力が

認められたものとして、妥協へ向つて進んで來はしませんか。さうなると、我々としては、萬

一輿論がやかましくなつて來た時、兵を動かす必要を主張出來るといふ自由が残される。

リンカーン 私の考ははつきりしてゐる。我々が出來る限りの努力をせぬならば——それが何

んであらうと——南部の分離權を根本的に許すことになる。これが私の意見だ。この問題をい

ま回避したとしても、明日は仕末をつけねばならん。

ブレリア 私は大統領に賛成です。

フツク 我々は出來るだけ戰鬪行爲を引き延すべきです。我々は兵を撤退すべきだと、私は考

へる。

リンカーン 撤退することは戰爭を遷延するかも知れない。が、結局は避け難いところに導く

——といふことが、お分りにならんか？

スミス 我々が抵抗すれば戰爭は不可避です。

リンカーン さうなりはせぬかと、私も怖れる。然し、その場合妥協せぬ強い主張を以つて参

戰出來る。ミスター・チエーズは？

チエーズ 難問題です。然し、全體として、私の意見はあなたと同じです、大統領。

リンカーン それから、君は、セワード？

セワード あなたの御意見は尊重します。然し私は不賛成です。

(扉にノックの音)

リンカーン お入り。(ヘイ入り來る。リンカーンに手紙を渡して去る。それを讀みなから)スコット

は兵二萬といふ。

セワード 我々は一萬も用意して居りません。

リンカーン 残るところは糧食を送る問題だ。私は諸君に命する——諸君の總てに——全能力

を擧げてこの件を考究して下さい。一時を彌縫すること、戰爭は避けられないと私は思ふ。

全力を擧げてサントー要塞を守る我々の決心は翻さぬといふことを世界に向つてはつきりとい

ひ、それから合衆國制度は飽くまで維持するといふわかり易い宣言をする。これによつて、我
我は誰にでも理義明白で、國家に對する忠誠心を以つて誰でも支持出来る汚れない一つの主
張を持つことになる。私は戦争と聞いただけでも身震ひする。然し、我々の手の中には一個神
聖なるものが信託されてゐる。それが今危ふくなくなつてゐる。我々には毛頭攻撃的な考へは
ない。我々の方が攻撃されて來てゐる。説き宥めることは失敗した。抵抗するのが我々の義務
だと私は考へる。アンダーソンに補給をせぬことは、その義務を否定することだ。諸君、問題
は諸君の前にある。(間)要塞に補給賛成は？ (リンカーン、チエーズ及びブレイア手を舉げる) 即
時撤退賛成は？ (セワード、カメロン、スミス、フツク及びウエルズ手を舉げる。暫くの間) 諸君、
私は諸君の多數決を拒む責任を取らねばならぬかと思ひます。議會と輿論を納得させることは
私がいたします。辭表をお受けしませうか？ (沈黙の間) 諸君の御審議を感謝します。では、
これだけ。(一同起ち上り、間餘等はセワードを残して、談じながら扉から出て行く) 君は間違つてゐ
る、セワード、間違つてゐる。

セワード 私はあなたの仰しやられることは信用します。あれ程までにつき進んだあなたの判
定を尊敬します。然し、私は感ずるまゝに述べる他ありません。

リンカーン この使ひの者と二人だけで私は話したいのだが？

セワード どうぞ。

(彼退出。リンカーン一寸の間、身動きせず立つ。それより、イリノイの家に於けるよ
りも大なる合衆國の地圖のところまで行き、前の如くそれを見詰める。それから、遠くの
扉まで行きそれを明ける)

リンカーン お入り。(使者入り来る) 君はアンダーソン少佐のところまで馬で直ぐ歸れるか？

使者 はい、歸れます。

リンカーン 直ぐに増援は出來ないと告げて呉れ、兵隊がないのだ。

使者 はい、承知いたしました。

リンカーン それから、最初の糧食輸送車は今夕ワシントンを出發すると言ひなさい。

使者 はい、承知いたしました。

リンカーン 有難う。(使者行く。リンカーンは一時テーブルの傍に立つ。ベルを鳴らす。ホーキンス

入り来る) ミスター・ヘイを呼んで――。

ホーキンス はい、畏りました。

(彼行く、一時してヘイ入り来る)

リンカーン スコット將軍のところへ走りなさい。どうぞ直ぐおいで下さいと、申しなさい。

ハイ、はい、畏りました。

—幕—

第三場

約二年後。白聖館に於ける小應接室。リンカーン夫人手紙を書きつゝある。夫人は良人が服装など全く構はぬのに失望し、せめて自分だけでもといふ考慮から、自身の着物は少し考へ過ぎたと見られるもの。夫人ベルを鳴らし、スーザン入り来る。スーザンは自分の立身を、夫人よりも世俗的でなく解釋してゐる。

リンカーン夫人 訪ねていらつしやる方は、どなたでもお通し。それから、大統領はお茶にお出でになるかどうか、お訊ねして。

スーザン ミスター・リンカーンはお茶においで遊ばすさうで御座います。

リンカーン夫人 それは結構。(スーザン去らんとす)スーザン。

スーザン はい、奥様。

リンカーン夫人 あんたはまだミスター・リンカーンといひますね。大統領といふのですよ。スーザン 畏りました、奥様。ですが、奥様、十五年もミスター・リンカーンとお呼びした後

では、むづかしう御座いますね。

リンカーン夫人　ですが、覚えなくてははいけません。今ではどなたでも大統領とお呼びになるのだからね。

スーザン　いゝえ、奥様。今でも「親爺のエイブラハム」と呼ぶ人が随分澤山御座います。それから、それよりもつと好きだといふ呼び方をする人も御座います。ほんの今朝で御座いますよ、コールドベニーが店先きで、「やあ、スーザン、エイブの親爺さん、今朝も御機嫌かな？」と申すんですよ。

リンカーン夫人　それを又、あなたは流行らせるやうにはしないだらうね。

スーザン　とんでもない、奥様。私はいつもミスター・リンカーンとお呼びいたしますわ。

リンカーン夫人　大統領といはなくてははいけません。

スーザン　わたし、覚えられさうにも御座いませんわ、奥様。

リンカーン夫人　それを努めてするんです。

スーザン　長りました、奥様。

リンカーン夫人　御客様はどなたでもこちらへ御通し。

スーザン　はい、奥様。御婦人の方がお一人お待ちになつていらつしやいます。

リンカーン夫人　なぜ早く言はなかつたの？

スーザン　申し上げようと思つてゐたところへ、奥様がミスター・リンカーン——いゝえ、大統領のことをお話しになり始めたものですから。

リンカーン夫人　それでは、その方をお通し。

(スーザン退出。リンカーン夫人は書簡机の丸蓋を閉ぢる。スーザン、ゴライアス・ブロー夫人を案内して歸つて来る)

スーザン　ミセス・ゴライアス・ブローが御見えで御座います。(スーザン退出)

ブロー夫人　御機嫌如何で御座いますか、ミセス・リンカーン？

リンカーン夫人　あなた様も如何、ミセス・ブロー。どうぞおかけ下さい。(二人坐る)

ブロー夫人　大統領様はお變り御座いませんか？

リンカーン夫人　はい、少し疲れましたやうで。

ブロー夫人　ほんとに、さうでいらつしやいませうとも。この怖しい戦争。大統領様は戦争にお倦きにならなければいゝかと存じますが。

リンカーン夫人　あの人には、この戦争は四六時中の心配で御座います。自分の責任をほんとに深く感じて居ります。

ブロー夫人 さうで御座いませうとも。ですが奥様は、御主人が戦争をおやめになり度いやうな御氣持にならないやう、お氣をつけて下さいませ。南部の怪物共は踏み潰して了はねばなりません。

リンカーン夫人 大統領の固い決心について、御心配は御無用かと存じます。

ブロー夫人 左様で御座いませうとも。私は昨日もゴライアスに申したんですよ——「南部が悲鳴を擧げるまでは、大統領は決して折れないでせう」と。良人も同意見だと申しました。

(スーザン入り来る)

スーザン ミセス・アザリーがいらつしやいました、奥様。

リンカーン夫人 お通しなさい。(スーザン退出)

ブロー夫人 あゝ、あの嫌あな女！ きつと、戦争をやめさせたがつてゐるんです。

(アザリー夫人入り来る。スーザン退出)

リンカーン夫人 御機嫌いかゞ、ミセス・アザリー。ミセス・ゴライアスを御存知でいらつしやいませう？

アザリー夫人 存じて居ります。御機嫌いかゞ？

(彼女坐る)

ブロー夫人 良人は戦争は少くとももう三年は續くと申すんですよ。

アザリー夫人 三年？ それは恐しいことになりませう、さうでは御座いませんか？

ブロー夫人 私達は犠牲を覺悟しなくてはなりません。

アザリー夫人 左様で御座います。

ブロー夫人 あ奴等のことを考へると、血が煮えくり返へるやうですわ。

アザリー夫人 私も前には南部の人達、可成り澤山知つて居りましたが、中に親切な良い方も御座いました。

ブロー夫人 それがあ奴等のうまく化る狡いところなんですよ。——これだけは間違ひ御座いません。それよりも私は、協同一致して國に盡すことを破る手合が私達の間に随分とありはしないかと思ひますの。大統領様に、私達けふお目にかゝれますでせうか、ミセス・リンカーン？

リンカーン夫人 程なくこゝへ参ると存じます。

ブロー夫人 あなた、随分と色々大變なお仕事を澤山お持ちでいらつしやるのに、ほんたうに御丈夫さうで御座いますね。私は自分の仕事はちよい／＼抛つてしまひます。それに、經費はすん／＼あがるし、何も彼も氣が減入つてまゐりはいたしません？ 良人も私も決つてゐる慈

善の寄附など幾つかやめることにいたしました。ですが勿論、私達誰だつて何かしら犠牲を拂はなくてはなりません。あ、御機嫌いかがでいらつしやいます、大統領様？

(リンカーン入り来る。夫人等起ち上り握手す)

リンカーン 今日、皆さん。

アザリー夫人 如何でいらつしやいます、大統領様？ (一同坐る)

ブロー夫人 で、何か喫驚するやうなニュースでも御座いますか、大統領様？

リンカーン 奥さん、毎朝私は目を覺すと、自分で自分にいひます——百人か、二百人か、それとも千人か、今日もこの國の同胞が殺される、と。そしてこれに自分ながら喫驚いたします。

ブロー夫人 それは、もう、左様で御座いませうとも。ですが、私が御訊ねいたしましたのは、何か良いニュースはと存じまして。

リンカーン あります。勝利のニュースがあります。彼等は二千七百人を失ひ——我方は八百人失ひました。

ブロー夫人 まあ素晴らしい。

リンカーン 三千五百人ですぞ。

ブロー夫人 ですが、そんな風に仰言る必要は御座いませんでせう、大統領様。こちらが關係のあるのは八百人だけでせう。

リンカーン 世界はあなたの心臓より大きいですよ、奥さん。

ブロー夫人 あら、大切な大統領さんがおむづかしくなりましたわ、ミセス・リンカーン。

(スーザン茶器を載せた盆を持ち込み、ぐるつと茶を配る。リンカーンは飲まず。スーザン去る)

アザリー夫人 大統領様。

リンカーン はい、奥さん。

アザリー夫人 私は御親切に甘えますことは好みませず、又あなた様が今どんなにか困難な御立場にあるかも存じて居りますが、かういふ良い機会を外してはと存じまして、一つお訊ねいたし度いことが御座いますのですが。

ブロー夫人 まあ、さういふ質問なんて、私には思ひも寄りませんわ。

リンカーン それはちつとも差支へのないお訊ねです。奥さん、私にはいつも考へてゐる事は一つほかありません。——何うしたらこれを止めることが出来るかといふことです。然し、止める一方、合衆國を完全に保たねばなりません。この二年の間、戦争は私にとつて一刻毎に苦

しいものになつて来てゐます。私は誰にも劣らず苦しめられてゐると思ひます。然し、これは堪へ忍ばねばなりません。二年前開戦の時、その理由は正しいものでした。それは今も變つて居りません。

アザリー夫人　あなたが立派な寛大なお方でいらつしやる事を私はよく存じて居ります。然し私は、戦争はどんな事情や理由でも、いけない間違つた事だと信じて居ります。

ブロー夫人　大統領はこんなお話しを度々お聴きになると、御元氣を無くさせられる許りではないかと存じますわ。

リンカーン　その御心配は御無用です、奥さん。奥さん、私も亦戦争はいけない間違つた事と信じてゐます。そんなにいけない間違つた事が起き得るのは、人間の弱さ、嫉妬、愚かさの仕業です。ですが、我々人間は皆弱く、嫉妬深く、愚かです。世の中はそんな風に出来てゐます、奥さん、そして私達はこの世の中から逃げ出すことが出来ません。我々のうちで最も悪い人達は、いつも佛頂面をして、その上他人に向つて侵略的に伸しかゝつて行く——これは、いはゞ間拔けた、強慾な海賊共のやうなものです。かういふ程度からは卒業した人々もゐます。だが、我々のうちの最上の部類の人々は、我武者羅な侵略に對しては、道理に訴へても聴き容れなければ、抵抗する本能をもつてゐる。あなたは、それは間違つた本能だと仰言るかも知れ

ない。私にはわからん。たゞ、これが事實であり、この事實が善良な數百萬の人々の中にあります。私はそれは間違つた本能だとは思ひません。私は世界は徐々に賢くなるものだと思つてゐます。侵略を憎む我々としては、侵略に反對するやうな人々を常に熱心に説き、だん／＼とその人々が我々のいふことを聴くやうになるのを望むといふのが、我々のすべきことです。ですが、さうしてゐる間にも、侵略者は、我々の抵抗する本能を無理にも働かせねば置かぬやうな事態を起す。その時は、我々は敢然として起ち、勇氣をもつて戦ふ中にも、この事が二度と起きぬやう祈らなくてはなりません。それから又元に還つて、二度でも三度でも四度でも、相手を説得することを努めねばなりません。腕力に訴へるといふこのやり方は、不完全なこの世界の誤つた行爲なのです。ですが、我々人間は不完全なものです。我々はこの世界を純化する爲めに努力せねばなりません。だが、自分を誰よりも立優つて純潔だと考へてはなりません。私がこの戦争を始めるか何うか決する時、「いゝや、自分はそんなものには掛り合はない。それは悪だ、そんなものには觸はらない」と言ふのであつたら、やさしい事であつたかも知れない。だが、それでは何も解決されません。私は只今あなたにお話したやうに、眞實な行き方であると思ふところを見定めたのです。かうした責任を胸に抱いてゐることは、誰にとつても、寂しいものです。私の考へ方は間違つてゐるかも知れませんが、然し、私はかういふ風に考

へるのです。

ブロー夫人 全然同感で御座います、大統領様。南部の馱共はたごに思ひ知らせてやらなくてはなりません。尤も、彼奴等を全滅してやる以外に、思ひ知らせてやる方法はなささうですけど。——良人のゴライアスはさう言ふんで御座いますよ。

リンカーン ゴライアスもういゝ歳におなりでせう。

ブロー夫人 どういたしまして、大統領様。良人はまだ三十八で御座いますよ。

リンカーン ほんたうに、まだ？　ちや、將校になつて一役やつて貰ふかも知れません。

ブロー夫人 あゝ、いゝえ。良人はとても離されませんでせうよ、——御承知のやうに政府の

請負をいたして居りますし、良人はどうしても参れません。戦争を中止にしたがつてゐる人達

について、あなたが今日お話しになつたことを話して聞かせたら、屹度大喜びいたしますわ。

アザリー夫人もこれで御満足で御座いませうね。無論、誰だつて不平は申せませう。ですが、

今もアザリー夫人にもお話ししたやうに、私達は皆犠牲は拂はなくてはなりませんわ。

アザリー夫人 御親切に御話し下さいまして、有難う御座いました、大統領様。私もそのこと

を考へて見なければならぬと存じます。私は今まで、戦はいけないものだと思つて参りました。

た。悴を戦に征かせ度くないと思つたのも、戦は悪であると思つたからで御座います。然し、

悴は何うしても征くと申しまして、先週これがまゐりました。

(彼女はリンカーンに紙片を渡す)

リンカーン (それを見、起ち上り、彼女に返す) 奥さん、人間には何んにも申さぬ方がいゝ時

が、間々に人間にはあります。お愁傷いぢはじく存じます。お愁傷く存じます。

アザリー夫人 (起ち上り乍ら) お暇申ませう。私がさつき申し上げたこと、お気にさはりは

いたしませんでせうか？

リンカーン 私達人間は皆憐れなものだと思ひます、奥さん。どうぞ、私をこそ悪く思つて下

さるな。(彼はさういひ乍ら、彼女の手を取る) メリト。

(リンカーン夫人はアザリー夫人を見送りに出る)

ブロー夫人 全くお氣の毒ですわ、あの女ですが、あの女、あんな間違つた考を持つてゐ

るので、がが餘計に大きくなる許りではありませんかしら？　大統領様、どうぞ、お氣弱な

氣振りなど御見せにならず、あの恥知らずの賊軍共が二度と再び頭を眞直ぐにあげられないや

うにして下さいまし。良人は申すんですよ——彼奴等には假借しない、といふ宣言を大統領は

早く出すべきだと——。私はあ奴等の中誰一人にだつて今後口は利かない積りですわ。(起ち乍

ら) さあ、もう失禮いたします。奥様には出がけに御挨拶いたします。御機嫌よう、大統領

領様。

(彼女扉口に向きかへり、リンカーンに向つて手を差し出す。それを彼は受けない)

リンカーン 左様なら、奥さん。序にあなたに一言忠告いたし度い。あの可哀さうな母親は、自分の思つてゐることを私に話しました。私はあの人とは考は違ふが、然し尊敬します。あの人は間違つてゐる、然し氣高い人です。あなたは、自分の考を私に話された。私はあなたと考へは違ふ。そしてあなたやあなたのやうな人を見ると恥しくなります。何んの犠牲も拂はないあなた方は、他人に戦はせて置いて、南部を全滅せよのなんのお喋りする。私は重い心を以つてこの戦争を迎へた。そして、私の胸は毎日に張り裂けんばかりです。私は人道のため、正義と慈悲のため、地上に於ける愛と同情の心のためにこの戦争を迎へた。而もあなたは私のところへ来て、復讐だの、破壊しろの、いつ迄もいつ迄も憎むなどといはれる。あゝした優しい人達は、考へ方は間違つてゐるが、清く間違つてゐる。而も、立派な主義を持つて間違つてゐる。我々の護らうとしてゐる大義名分を汚すのは、あなたのやうな人達だ——この大義名分をつまらない小さなものにしていふのはあなたのやうな人達だ。左様なら。(彼は扉を明ける。プロ夫人いふ可き言葉もなく退出。リンカーン、室を横切り、ベルを押す。一寸間を置いてスーザン入り来る) スーザン、あの女の人が二度とこゝへ来ると、災難にあふかも知れんぞ。

スーザン はい承知いたしました。それだけで御座いますか？

リンカーン いゝえ、それだけでは御座いません。(ふざけて意とからいふ風にいふ) 私はこの上衣を好かない。これを直ぐ他のと替へようと思ふ。一、二分したら来るから、その間に若しミスター・ウイリアム・カーチスといふ方が見えたら、こゝでお待ち下さいと申すんだよ。

(リンカーン出て行く。スーザン茶碗を片づける。彼女が扉の方へ行かうとする時、物静かまで眞面目さうな半白の黒人が扉の方から出て来て彼女の前にぬうつと起つ。スーザンひどく喫驚す)

黒人 (彼はゆつくりと且つ頗る物静かに口を利く) 大丈夫です。

スーザン 一體全體、あんたは誰なの？

黒人 ミスター・ウイリアム・カーチスです。ミスター・リンカーンがこゝへ来るやうにいはれたのです。誰も止めなかつたから、こゝまでたづねて来たのです。

スーザン あんたが、ミスター・ウイリアム・カーチスですか？

黒人 さうです。

スーザン ミスター・リンカーンは直きにこゝへお見えになります。今上衣をお着替へにいらつしてゐます。お坐りなさいませよ。

カーチス はい。(いはれた通りにし、おづ／＼しながら四邊を見廻はす様子が、どことなく物哀れに見える) ミスター・リンカーンにお住ひですね。あなた、女中さん？ 若い娘さんには、

ミスター・リンカーンのやうな人の女中さんになるのは、大變いゝことです。

スーザン え、御主人と私、氣持よく使ひ使はれてますわ。

カーチス ほんとに悪いことですよ、南部で奴隸になつてゐるのは。

スーザン もうし、あなたミスター・カーチス、私を奴隸と一緒にしないで頂戴。

カーチス いや、あなた奴隸でない。あなた女中さん、然し、あなた自由な人だ。それは大したことだ。貧乏な召使ひでも、自由をもつて生れる。

スーザン さうですよ。然し、あなた貧乏な召使といふのは、私を憐んでゐるの？

カーチス 憐む？ いや、あなたを大したものだと思つてゐます。

スーザン 大したものか何うか私にはわかりません。あなたの言ふ通りかも知れませんよ。

白聖館にまで登り上るのは、百人が百人といふわけには行きませんかからね。

カーチス 自由の人間、百人が百人といふわけには行かない。あなた大したものといふのは、

さういふ理由だ。

スーザン そのこと、私今まで大して考へたこともありません。

カーチス 私はいつもその事ばかり考へてゐる。

スーザン あなたは自由なんでせう、さうぢやありません？

カーチス さうです。自由人としては生れなかつた。子供の時は、黒ん坊の小僧と呼ばれてひ

つばたかれた。私は母親を見た——が、その見たいろんなことを忘れたい。

スーザン お氣の毒ね、ミスター・カーチス。それは悪いことです。

カーチス さうです。悪いことです。

スーザン あなた達黒ん坊——いや、黒人の男の方達は皆んなあなたのやうな人？

カーチス いや、私は恵まれてゐる。他の人、皆んなが皆んな、恵まれてはゐない。

スーザン さうでせうね。ミスター・リンカーンがお見えになりました。(リンカーン、自分の思ふ通りの上衣に着替へて、屏のところへ来る。カーチス起ち上る)「こちらが、お話しのお座いますた方で御座います。(彼女、盆を持つて出て行く)」

リンカーン ミスター・カーチス、ようこそ。(彼手を差し伸べる。それをカーチスが取つて、接吻せんとす。リンカーン静かにそれを制す。自ら椅子に着き乍ら) 何卒お坐り下さい。

カーチス (帽子を手にしたまゝ、依然立つたまゝで) 會ひに来い、とわざわざ、私に仰言つて下さつたのは、ほんたうに、忝ないです。

リンカーン 私はまたあんたが、拒むかと思つてゐた。

カーチス ちいと、はにかんで？ それはさうです。ですが、どつさりお願ひしたいことがあるです。伺つて宜かつたです。

リンカーン どうぞ、お掛け。

カーチス 掛ける方が作法で？

リンカーン どうぞ、あんたが掛けなくては、私も掛けて居られんでせう。

カーチス 黒人は黒人、白人は白人。

リンカーン 何をつまらん事。たゞ老人二人が一緒に坐るといふだけのこと、(リンカーンの手振りに応じてカーチス坐る)——話をしながら。

カーチス ミスター・リンカーンより、わしの方が年上と、わしは思ひますが。

リンカーン さうだらうと、私も思ふ。私は五十四だ。

カーチス わし、七十二で。

リンカーン 私は自分が七十二になつても、今のあんた位に若く見えたいと思ふね。

カーチス 冷たい水。澤山歩く。ジーザス・クライストを信仰、子供の時教へられた薬草をす

うつと用ひて來ました。ミスター・リンカーン試して見なさるといふ。大層よい。(彼は小さく

紙にひねつたものをリンカーンに渡す)

リンカーン いやあ、これはほんとに御親切な。有難う。時に、私はあんたの説教のことを一度聽いてゐます、ミスター・カーチス。

カーチス はい。

リンカーン 私も一度聽きたいものだと思つてゐます。

カーチス ミスター・リンカーンは私達のえらい味方です。

リンカーン 私はとうとう決断することにしました。

カーチス 決断？

リンカーン 奴隷は無くする。今まで我々はそれを制限することにしてゐた。もうそれは廢止する。

カーチス あなた、確か？

リンカーン 確かだ。

(カーチス立ち上り、頭を下げて又坐る)

カーチス 私らの仲間の人達、これから澤山ものを覚えなくてはならない。何年も、何年も、何年も。物知らずで、いちけきつて、疑ひぶかい人間の集りで。大へんむづかしいことで、大

へん遅いことでせう。(情熱が漸次高まり)だが、自由に生れる身體になる。自由。私、奴隷に生れた、ミスター・リンカーン。奴隷に生れないどんな人も、この事、わからない。

リンカーン さうであらう、さうであらう。私にはわかる。

カーチス (普通の状態に返つて)それを信じます。はい。

リンカーン あんたは何んでも遠慮なく私に訊いてもらひたいのだがね。

カーチス 私少し不満なことがあります。多分、私がよく分らない爲めか知れません。

リンカーン お話しなさい。

カーチス 南部の兵隊等がある黒人等を捕虜にする。あなたの制服を着た黒人等です。それを捕虜にする。さうして、それを皆んな殺す。

リンカーン 知つてゐる。

カーチス どう、それを、あなたする？

リンカーン 我々は抗議を送つた。

カーチス 駄目。もつとしなくてはいけない。

リンカーン もつと何が出来るだらう？

カーチス あなた知つてゐる。

リンカーン 知つてゐる。然し、復讐をせよと私に頼みなさるなよ。

カーチス (活氣づき乍ら) 目には目を以つて報い、齒には齒を以つて。

リンカーン いけない、いけない。あんたは考へねばならん。自分で言つてゐることを考へねばならん。

カーチス 私は殺された黒人等のことを考へる。

リンカーン あんたは私に人を殺せよと頼むのではなからうね。

カーチス 罰する——人殺しではない。

リンカーン いや、人殺しだ。他人のした事を罰するために、どうして私に人殺しが平然として出来よう？ 後に起ることを考へなさい。悪い先例を追ふのでなく、立派な模範をつくるのが我々の仕事ですぞ。あんたもさうは思ふだらう？

カーチス (やゝ間を置いて) わかつてゐます。さうです。あなたの清い光、人々を輝しますやう！ 私、ミスター・リンカーンを信用します。すうつと信じて行きます。私が間違つてゐました。私の仲間があんまり可哀想と思つたので……。

リンカーン この事を憶えておいてくれませんか？ この二年間以上、私は毎日あんたの方のことを考へて来た。考へてゐるうちに、物憂く疲れた男になつて了つた。だが、私は決して忘れ

ませんぞ。それはあなたに約束する。

カーチス あなた立派な、親切な友達。私、あなたを必らず愛します。

(扉にノックの音)

リンカーン はい。

(スーザン入り来る)

スーザン 将校のお方がお見えで御座います。大変重要な用件だと仰言います。

リンカーン こちらから行かう。(彼とカーチス立ち上る)お待ち下さらんか、ミスター・カーチス。二三訊ねたいことがあります。

(彼出て行く。段々暗くなり、スーザンはランプに点火し、カーテンをひく。カーチスは扉の傍に立ちリンカーンの後を眺める)

カーチス あの、實に善い人。

スーザン あんた、それが分つたんですわね?

カーチス あんた、あの、愛しますか、白人娘のあんた?

スーザン 勿論、愛しますわ。

カーチス さうです。それ當然だ。

スーザン あの人がほんたうの白人です。——お気にさはらないで下さい。悪氣でいふのでは

ありませんから。(註、スーザンはあゝいふ立派な人は白人だと、白人に力を入れていたので、「お気にさはらないで……」と言譯したのである)

カーチス 氣になどさはるものかね。あの方、黒人も何も區別無いやうに、私に向つて話される。

スーザン あのね、ミスター・カーチス。御主人はこの戦争で命を取られますよ。あの方の心情は、世間でもいふやうに小羊のやうに優しいのですからね。

カーチス ほんとに皆んなを不仕合せにする戦争だ。

スーザン ですが、御主人は正しいと思ひますわ。行くところまで行つて解決する他ありません。

(階下の街には市民の一群が「ジョン・ブラウンの遺骸は」の歌を歌ひつゝ近よつて来る。カーチスとスーザンは立つたまま、聴き入り、スーザンも一緒に歌ひ出す。一群の歌聲は漸次消えて行く)

第四場

略同じ頃。ワシントンに於ける閣議。スミスは去り、カメロンに代つてエドウィン・エム・スタントンが陸軍長官。その他の閣僚はセワード、チエーズ、フック、ブレイア及びウエルズ残留して變化なし。一同、リンカーンの席を一つ明けて、それ／＼卓を圍むため自席につく。

セワード (入り来りつゝ) 私は今恰度招集を受けたんだ。何か特別なニュースでも入つたかね？

スタントン 入つた。マクレランがアンチイタムでリートを破つた。我方最大の成功だ。敵をして再び勢力を挽回させぬことだ。潮の變り目だ。

ブレイア 大統領に會つたかね？

スタントン 今まで一緒だつた。

ウエルズ 何んと云つてゐたかね？

スタントン 「とうとう」といつたきりだ。すぐこゝへ見える。

フック 又あの奴隷解放の宣言を議題にのぼすつもりだらう。私の意見では、時機を得てゐない。

セワード さうさね。何んぢやあないかな、我々のうちでは大統領が一番傑出してゐるといふことがこの頃皆んなにわかつて來た、といへるだらう。

フック 到るところ可成りの反感もある。——私の知つてゐるところでは。

ブレイア この事業を遂行するに足る人格を持つてゐるたゞひとりの人、それが大統領だ。

フック 別な見方も他にいろ／＼ある。

セワード そりや、あるだらう。だがこゝにはないと思ふね、確かに。

フック それに對して私は何んにもいふまい。だが、君に訊きたいが、大統領が奴隷解放についていふのはどういふ意味なんだ？ 私は今までかう予解して來てゐる。——我々の戰つてゐるのは、合衆國を分解させずに保つて行くユニオンのためである。奴隷廢止は適當な時機に法律によつてやる事として、それまでは我々の腹に入れて置く。かう自分は解してゐる。ところがだ、大統領は解放が唯一無二の目的であるかの如くに言ふかと思ふと、次の日には、ユニオンさへ確立出來たら、前の考へは全部捨て、しまつてもいゝかの如くに言ふ。一體我々はどう

了解すべきなのか？

セワード いや、それは君が間違つてゐる。今でも大統領にはユニオンが第一だ。だが、君はよくそれを知つてゐる筈だ。奴隷に關する彼の見解については何ん等疑問はない。君はよくそれを知つてゐる筈だ。奴隷に對する政策については、心の中に自由に保留して置き、いつでもそれを、ユニオンを保つ爲めに、適宜に實行しようとするのだ。君もあの演説を記憶してゐるだらう。——「奴隷を一人も解放せずユニオンを救へるなら、私はさうする。奴隷を總て解放することに依つてユニオンを救へるなら、私はさうする。若し、一部の奴隷を解放し、他をそのままにしてユニオンを救へるなら、私はそれもする。この争ひに於ける私の最高の目的はユニオンを救ふにある。」これ以上明々白々なことはあるまい——恰度、時来れば奴隷を解放せんとする彼の決心の明々白々なるが如くにだ。

フック 左様さね。人によつてはもつと別な行き方をしたらうよ。

ブレイア どんな人だつて、彼ほど賢明には行動出来ないに極つてゐる。

スタントン 私は大統領とは一から十まで同意見ではない。然し、少しでも意見一致の出来るのは大統領とだけだ。

フック 彼は、今宣言を發布しようとして提案するだらうが、それは、見てゐ給へ、輿論を混乱さ

せるに極つてゐる——我々が輿論をはつきりとしたものにして置かうとしてゐる時にだ。

ウエルズ 大統領が宣言發布を提案するのはたしかだと君は思ふかね？

フック たしか、どうか、見てゐ給へ。

ウエルズ 若し提案したら、私は賛成する。

セワード リーの軍は破られたかね？

スタントン まだだ。——だが、重大な危機にある。

フック 何んだつて大統領は來ないんだらう？ さつきのニュースも結局何んでもない事だつ

たと思はせるではないか。

チエーズ 私は大統領がこれに就いて何んといはれるか、とても知り度いんだ。

(書記入り来る)

書記 大統領が皆様に宜敷くと申されました。直ぐにお出でになります。(彼去る)

フック もしあれが提案されたら、私は反對する。

チエーズ 何んにも言はれないかと私は思ふ。

セワード 私は言はれると思ふ。

スタントン 何れにせよ、今が危機だ。

ブレイア あ、お出でだ。

(リンカーン、小冊子を手にして入り来る)

リンカーン お早よう、諸君。

(彼席に坐る)

閣僚一同 お早よう御座います、大統領。

セワード 素晴らしいニュースださうですね。

フツク 事態を、も少しの間軍の手にまかして、進むところまで進ませて置けば、この難關は屹度突破出来る筈なんだ。

リンカーン 今日には興奮させられる朝ですよ、諸君。私も少し興奮してゐるやうだ。どうも興奮してゐる時は、私の頭は最上の状態ではない。一寸御免なさいよ。(例の本を開き乍ら)これで我々皆んなが落つくでせうよ。これはアルテムス・ウアズの近作ですよ。

(彼がその本の次の章句を讀む間、閣僚等は致し方なく我慢してにこ／＼顔を装ひ乍ら囁く。例外はフツクとスタントンで、フツクはいら／＼する氣持を隠さうとしない。スタントンも同様にしたのだが、フツクをたしなめるつもりで、應とそれを慎んでゐるといふ様子)

「ユチカ町に於ける目茶苦茶な不法行爲。千八百五十六年の秋、余の見世物をユチカで見物に共したり。ユチカはニューヨーク州に於ける眞に伊大なる町なり。市民はそれがしを心より觀待したり。新聞は聲高く保めをせり。ある日、余はいつもの如く羽手なる口丁にて余の毛だものやへびについて説明をはじめ居りたるころへ、それがしの糞ガイと輕別の心はいか許りなりしぞや、大なる横ぶくれせし野郎がひとり、主キリストの最後の晩さんの蠟人形ザイクをかざりし檻のところへ向い來たり、イスカリオテのユダの足をつかみて地上に引ずり倒したり。野郎はその次には力にまかせてユダをなぐりはじめたり——。

「お前は一體全體何をするのか」と余は叫びたり。彼れいふ「お前、こそ何んのためにこの性根ボネのくさりし野郎をこの町へつれて來た」さう言つて、次には蠟人形のあたまをしたたか打ちたり。

それがし言う「このめつばうな大頼馬奴が、それは蠟人形で、ウツツキの使徒ににせただけのものよ」彼れ言う「手前としてはさういいだから、だが、ちぢい、わしはハツキリ言つておくが、ユダ・イスカリオテはこの町につらあ晒して、無事に歸れるものではねえ」さう言つて彼はユダの頭にナイフをつき入れたり。この若者はユチカの町の一流どこの家にぞくしたり。余は彼を訴へたるに、裁判官は三等放火犯罪の判決を下したり。」

スタントン どうでせう、もう開議を始めることにしましては？

フツク 左様、始めよう。

リンカーン ミスター・フツクはいふ——「左様、始めよう」

スタントン 有難う。

リンカーン いや、お禮はミスター・フツクに。

セワード マクレランがリーを追撃中だと私は想像しますが。

リンカーン 君はよく想像するな。事實、マクレランがリーを追撃する機会を得たのはこれが始めてだ。そして、これが南軍が最後に近づいた第一の徴候だ。マクレランがこの機会を掴みぬ様なら、グラントを送つてこの仕事をやらせる。少し長引くことにはならうが、何構はん。戦場の指揮権は手を替へた。

ブレイブ グラントは飲み手ですよ。

リンカーン では、何印か、彼の好みをいつて貰はう。他の連中へも幾樽か送つてやらう。グラントは勝利を執ひとる。

フツク 他に用件がありますか？

リンカーン あります。數週間前に、私は諸君に、奴隷全部を解放する宣言の案文をお見せ

した。

フツク (ウエルズに向ひ微笑) それ、私が言つた通りだらう。

リンカーン 諸君はその時まで發布すべき時でないかと考へられた。私も同意した。だがその時機は今來たと私は思ふ。もう一度こゝで讀ませて貰ひませう。——「キリスト紀元千八百六十二年一月一日以降、各州内に奴隷として保有され居る總ての者は、永久に自由たるべく、之れに反對する者は合衆國に對する反逆者たるべし」それ迄に、今日から三ヶ月の餘裕があります。別の案文に、賠償に關する條項があります。

フツク 私はこの時機に、そんな無制限な條件で、そんな宣言を發布することには反對せざるを得ません。この問題は我々の勝利が完全になるまで、留保すべきであります。今、これを突き出すことは、國內の結合を最も必要とする時機に、不和反目を招くことになりませう。

ウエルズ 何故今が最も適切な時機であると、あなたが御考へになるのか、大統領、私は了解出来ません。

リンカーン どうぞ、諸君、私はこの問題を、私の有つてゐる限りの熱意と、能ふ限りの理解力とを以つて考へて來たことを、信じて下さい。

フツク ですが、六ヶ月前にニューヨーク・トリビュン新聞紙が、あなたに明確な宣言を以つ

て来いと迫つた時、あなたはそれを叱責なされた。

リンカーン　まだ時機で無いと思つたからです。箒星を禁止する羅馬法皇の命令のやうに無力な宣言を出すのは無駄なことであつた。私の義務は、主義に終始一貫して忠實であるべきこと、同時に間違つた時機にそれを行動に移して、主義を裏切る結果にならぬこと、であります。それが私の考へる政治家たるの資格です。今まで永い間、私は二つの堅い決心を持つて來ました。ユニオンを保つこと、奴隷を廢止すること。如何にしてユニオンを保つかについては、私はいつものはつきりしてゐた。そして二年に餘る苦闘を経て、私の心に描いた望みは少しも縮められてゐない。我々はユニオンの爲めに戦ひ、今やユニオンの爲めに我々は捷ちつゝある。いつ、いかにして奴隷廢止を宣言すべきか。これに就いては、今まで私は不確かであつた。もう不確かではない。數週間前、私はそれはつきりと見通した。私は自問自答した——反軍がメリーランド州から驅逐され、結局我々が勝つといふ見込が全世界にもはつきりとなつた時、その時こそ、その勝利と合衆國ユニオンの擁護と共に、奴隷廢止を宣言すべき時機である。私はこの約束を自分自身に向つてし、神に向つてした。反亂軍は今や驅逐され、私はこの約束を果さうと思つてゐます。自分ひとりで決定したこの件に關しては、私は諸君の助言を望みません。私がかう申せばとて、私は諸君のうちのどなたに對しても、尊敬以外の何ものもありません。

いのです。どうぞ諸君、この件に關して私を支持して下さい。

フツク　私の意見では、それは餘りにも急激です。

リンカーン　今一つの私の見るところを述べませう。私はよく知つてゐる——この問題についても、他の問題と同様、私よりも良くやり得る人々があるかも知れない。そして、國民の信託が私よりもそのうちの一人に更に十分に置かれてゐる事がはつきりし、その人を私の地位に入れ替らせる立憲的方法さへあれば、その人に當然さうさすべきである。私は喜んでその人にこの地位を譲る。だが、私は舉國一致の信託を得てゐるとはいへないが、いろ／＼と合せ考へて見て、他にもつと信託を得てゐる人があるかどうか分らない。それから、それはどうあらうとも、私のこの地位に他の者を持つて來る方法がない。私は大統領として茲にゐる。私の出来る最善を盡し、自分が進むべきであると信ずる道をとる責任を擔はねばならない。

スタントン　よく考へる爲め、ほんの暫く延ばすといふ譯には行きませうまいか？

チエーズ　私がかう思ふのですが——我々が今天下に押し立ててゐる唯一の旗印は、ユニオンであるといふことを、お互に忘れてはならない。

フツク　私は全然同感だ。

リンカーン　諸君、我々は歴史から逃れることは出来ない。この政府に列する我々は、欲する

と欲せざるとを問はず、後世に記憶されるであらう。我々の中の一二の個人的重要性とか、その反対とか、そんなことは問題にはならない。奴隷に自由を與へることは、自由人の自由を保證することなのです。我々は地上に於ける最後の又最上の希望を、氣高く救ふか、卑しく失ふか、何れかその一つである。(彼は宣言書を自分の前に置く)「これより後、永久に、自由たるべし」諸君、私は諸君の支持をお願いする。(彼サインする)

(關係等起つ。セワード、ウエルズ及びブレイアの三人はリンカーンと握手して退出。スタントンとチエーズは彼に頭を下げ、前の三人に従ふ。フツクは最後に椅子から立ち、握手もせず、立ち去らんとす)

リンカーン　フツク。

フツク　はい、大統領。

リンカーン　フツク、人は耳に入つてくることは聞かぬわけには行かぬものでな。

フツク　どうぞ、もう一度仰言つて見て下さい。

リンカーン　フツク、或る人達がよく用ひる方法だぞ、不快なことをいはれると、分らぬよりをしてそれを繰り返させ、相手を困らせようとする。それは有効なことも多いが、私はそれでは滅多に困らせられない。私は、耳に入つてくることは聞かぬ譯には行かぬ、といった。

フツク　それは又どういふ意味か、私には分りかねます、大統領。

リンカーン　これ、フツク、外に誰も居らん。リンカーンといふ名は充分信用がある筈ではないか。もう分つてゐるではないか。

フツク　どうして私に分りませう？

リンカーン　では、率直にいふが、陰謀が進められてゐるな。

フツク　政府に反對してですか？

リンカーン　いや、政府部内で。私に反對して。

フツク　批評でせう、多分。

リンカーン　何んの目的で？ 私の遣り方をよくする爲めにか？

フツク　恐らくはその目的でせう。

リンカーン　それなら、何故これこれだと私には告げないのか？

フツク　何んとなく氣がさす、人間自然の情からだと思像します。

リンカーン　それとも野心か？

フツク　野心とはどういふ意味で？

リンカーン　君は私の地位に坐るべきだと思つてゐる。

フツク 大へんよくお分りですね。

リンカーン 君が私の地位に入れ替はるべきだと、誰一人として思はない筈はないと、君はひとり想像してゐる。

フツク 何んの権利があつて、あなたは左様なことを仰言る？

リンカーン ほんたうでは無いか？

フツク あなたは私の不意を襲ひなさる。私を不利な状態で抑へなさる。

リンカーン 君は大層良心的な人のやうに口を利くのう、フツク。

フツク あなたは私の名譽を疑はれますか？

リンカーン さう君が思ふなら、その通り。

フツク では辭職します。

リンカーン 何に對する抗議として？

フツク あなたの疑ひに對する——

リンカーン それは誤つてゐるか？

フツク よろしい、率直にいひます。私はあなたの判断を信用しません。

リンカーン 何んに就いての？

フツク 一般的にです。あなたは奴隷廢止を強調し過ぎる。

リンカーン 君はさうは考へてゐない。君の考へてゐるのは、國民の感情が奴隷廢止に反對して來るだらうと怖れてゐることだ。

フツク それは説得すべきもので、強制すべきものではありません。

リンカーン 國民中立派な心がけの人々は皆よく諒解してゐる。得手勝手な分子だけが一番大きな騒ぎをし、君はそれだけを聞いてゐる。君は奴隷廢止論者といふ怖しい名で呼ばれるのが厭いやさに逃げるだらうが、さういつて呼ぶ連中が如何に輕蔑すべき手合であるか、君は知り過ぎてゐる筈だ。

フツク それから、あなたは反逆罪の個人的刑罰をどう扱ふかについて述べられた時、もつと當然強硬であるべきなのに、それをしなかつた。

リンカーン これは戦争なのだ。血で血を洗ふ部族の鬭争とはちがふ。

フツク 我々は國家に對する反逆と戦つてゐるのです。これに對處するには峻嚴であるべきです。

リンカーン 反逆は討ち破る。さうして、和解の政策で臨むつもりだ。

フツク それは軟弱政策です。

リンカーン それは信念の政策——同情惻隱の心の政策です。(暖かく)フツク、なぜ君はあ
あした嫉みそねみで私を惱ますのか？ 前にも一度、閣僚の一人が、私にかくれて事をしよう
としてゐるのを発見したことがある。然し、その人には私心はなく、過ちを男らしく直した。
だが、フツク、君はこの頃の君の仕事が極めて重いために、己惚れて心をひねくらせた。私は
皆知つてゐる。私は君が権力を得る爲めに、謀(ま)みを重ねて來たのを見張つて來た。それを見て
私は——寂しい人間である私は——悩み苦しんで來た。神が私の手に委ねられた仕事はまこと
に大なるものであり、私に許されてゐる歲月はまことに尠い。従つて私は、このわが家の中で私
に信實を以つて盡してくれらることを、心の底から飢ゑ求めてゐる。君はそれを私に拒んだ。
君は君の職域で大なる奉公をした。が、同時に君は、他人を羨むやうになつて來た。さうして
今君は辭職するといふ——前にも一度私が友人として大びらに君に話した時と同じに。恐らく
君は、私が君を留めようとして、またなだめたり、すかしたりするだらうと思つてゐる。私
はそれはもうすべき事でないと思ふ。決してしませぬ。私は君の辭職を、言葉通りに受け
ます。

フツク 満足です。(彼は立ち去る爲め向きかへらんとす)
リンカーン 握手をしてくれませんか？

フツク それは何卒お許し下さい。

(彼行く。リンカーン暫くの間沈黙して立つ。——苦難の航海を續けし、寂しき船長の面影。
彼ベルを鳴らし、書記入り來る)

リンカーン ミスター・ヘイに來るやうに。

書記 かしこまりました。

(書記去る。リンカーン上衣のかくしより一冊の本を取り出し、開かずになんか手に持つ。

ヘイ入り來る)

リンカーン 今日はずと疲れた、ヘイ。少し許り讀んで呉れ。(ヘイに本を渡す)「ザ・テンペス
ト」——例のところ分つてゐるな。

ヘイ (讀み出す)

我等の饗宴は今や終りぬ

現はれたりし役者等は

かねて申し置きたる如く

みな物の精にてありければ

消え去り畢(お)ぬ大氣の中へ

薄き大氣の中へ

この幻影の根もなき

つくり屋のごとく

雲にそびゆる樓閣

きらびやかなる官殿

壯嚴なる寺、偉大なる地球そのもの

否とよ、地球の受けつぐよろづの物は

悉く消えうせぬべし

而も、この空なる見世物の消えし如く

後には一片の雲だにも残らず

我等は夢と同じ素材もてつくられ

この小^こさやかなる一生は

眠りを以つて始まり終るなり

リンカーン 我等は夢と同じ素材もてつくられ、この小^こさやかなる一生は……

幕

第五場

千八百六十五年の四月の或る夕。アボマトックスに近き一農家。リンカーンの麾下にある北軍の司令官グラント將軍、副官マリノズ大尉と共に、テーブルに向ひ坐る。彼は葉巻を吸かしながら、時にウイスキの杯を満す。傳令デニス、室の一隅のテーブルに倚り、物を書きつゝあり。

グラント (彼の前に置いてある大型の懐中時計を見ながら) 一時間半。ミードからもつと何か報告

がもうあつていゝ時刻だ。デニス。

デニス (テーブルのところまで來り) はい。

グラント この書類をテーブルマン大尉のところへ持つて行け。それからウエスト大佐に、第二十三聯隊はまだ戦闘中か、聞いて來い。料理番に十時が打つたらスープを持つて來いといひなさい。昨日のは冷かつたといへ。

デニス はい。(彼出て行く)

グラント その地図をかしてくれ、マリNZ。(マリNZは自分が研究しゐたる地図を渡す。グラントはそれを取り、無言で調べし後)さうだ。何等疑はない。ミードが寐込んで了ふなら格別、もう時間の問題だ。リーは偉い男だが、これを切り抜けることは出来まい。

(地圖の上へ指で輪を描きながら、さう言ふ)

マリNZ (再び地圖を取り) これで最後になりませうな。

グラント さうだ。リーが若し降参すれば、皆んな家へ歸る荷造りだ。

マリNZ ほんとに、ほんとに、素晴らしいですなあ——家へ歸れるといふことは。さうぢや御座いませんか、將軍?

グラント ほんとに、ほんとに、素晴らしいことだらうよ。

マリNZ 失禮いたしました、將軍。

グラント いやいや、お前のいふ通りだよ、マリNZ。わしの悴は來週遠くの學校へ行くのだが、奴を連れて行つて、面倒見てやれることになるかな。

(デニス歸り來る)

デニス ウエスト大佐が申されます。——はい、この半時間戦闘中。料理番が申します。——申譯御座いません。粗忽で御座いました。

グラント 粗忽は臺所の中だけにして置けと言つといて呉れ。

デニス 申します。

(彼は元の位置へかへる)

グラント (書類を見乍ら) この小銃今日の午後送つたんだらうな?

マリNZ 左様で御座います。

(他の傳令入り來る)

傳令 ミスター・リンカーンがお着きになりました。只今中庭で御座います。

グラント よし、今行く。(傳令去る。グラント起ち上り、扉口へ行き、そこでリンカーンとヘイに出會す。リンカーンは長靴をはき、幾多の戰場を経たる胡高帽をかぶり、グラントと握手し、マリNZの敬禮を受ける) 今おいでにならうとは全く豫期いたしませんでした。

リンカーン さうだらう。だが、ちいつとして居られなかつた。どういふ風かな。(一同坐る)

グラント ミードの一時半前の報告によりますと、リーを二哩を残して包圍したが、それも今塞ぎつゝある、といひます。

リンカーン それで先づ大體落着といふわけかな?

グラント 今申した二哩に何かへマさへ起らなければです。ミードから新しい報告を刻々待つ

てゐるところなのですが。

リンカーン　これ以上もつと戦闘があるだらうか？

グラント　多かれ少かれ、今夜中は戦闘が続きませう。ですが、リーも朝になれば絶望であることが分る筈です。

傳令　（入りながら）急報であります。

グラント　うん。

（傳令去る。戦場よりの若き將校入り来り、敬禮し、通信をグラントに渡す）

將校　ミード將軍からであります。

グラント　（それを受け取りながら）有難う。（彼それを開き讀む）お前は待たなくて宜しい。（將校敬禮して出て行く）さうです。ミードは包圍の輪を締めて了つた。そして敵に十時間の猶豫を與へた。時間は八時と記してあります。すると明朝の六時半までです。

（彼はその通信をリンカーンに渡す）

リンカーン　我々は情深くなくてはならん。ポップ・リーは勇敢に戦つて來た。

グラント　（一の通紙を取り）この名簿に目を通して下さいませんか？　多分これがこの種の最後のお仕事かと思ひます。

リンカーン　（その紙を取りながら）これが我々の仕事のうちの、厭あなところだな、グラント。

銃刑はあるか？

グラント　一人あります。

リンカーン　馬鹿な、グラント、そんな事しないで、どうしてやつて行けないんだ？　いや、いや無論やつては行けない。それは何んといふ者だ？

マリンス　（帳簿を開きながら）ウイリアム・スコットと申します。少しむづかしい事件であります。して。

リンカーン　どうしたんだ？

マリンス　彼は強行進軍をいたしました後、病氣の戦友を助けてやる爲め、二人分の歩哨勤務を自ら進んでやりました。そして、歩哨の位置で眠つてゐるところを發見されました。（彼帳簿を閉める）

グラント　私はそれを何んとかして助けたかつたが、致し方がありません。最も重大な時に、最も重大な地點でありました。

リンカーン　いつ、銃殺は？

マリンス　明日、明け方で御座います。

リンカーン　その男を射つて、それがその男に何んの爲めになるのか、私には分らんなあ。その兵隊はどこにゐるか。

マリンス　こゝに居ります。

リンカーン　私が行つて、會つても宜しいか？

グラント　どこに居るのか？

マリンス　納屋だと存じます。

グラント　デニス。

デニス　（テーブルから起つて）はい。

グラント　スコットをこゝへ連れて来いと皆にいひなさい。（デニス出て行く）私はウエスト大

佐にも會ふことにする。マリンス、あの數字はもう出来たか、テンプルマンに訊いてくれ。

（彼去り、マリンス従ふ）

リンカーン　君は行くか、ヘイ？

（ヘイ行く。暫しの間、リンカーンはマリンスが見てゐた帳簿を取り上げ、それを覗き込む。この間にウイリアム・スコット護衛付きで連れ込まれる、彼は二十歳の青年）

リンカーン　（護衛兵等に）有難う。外で待つてゐなさい。（兵等敬禮し、出て行く）お前がウイリ

アム・スコットか？

スコット　はい。

リンカーン　私が誰だか知つてゐるか？

スコット　はい。

リンカーン　總司令官から聞いたが、お前は軍法會議に廻はされたさうだな。

スコット　はい。

リンカーン　重大な軍紀違反だな。

スコット　分つて居ります。

リンカーン　どうしたんだ？

スコット　（間を置いて）どうしても目を覺して居られませんでした。

リンカーン　長距離行軍をしたのだな。

スコット　二十三哩でありました。

リンカーン　お前は二人分の歩哨勤務をしたな。

スコット　はい。

リンカーン　誰がお前に命じたか？

スコット はい。自分から申出でました。

リンカーン 何故？

スコット イノック・ホワイト——彼は病気でした。私達は同じところから来ました。

リンカーン どこか、それは？

スコット ヴァモントで御座います。

リンカーン お前はそこに住んでゐるか？

スコット はい、左様です。私の——私共はそこで農業をやつて居ります。

リンカーン 誰が？

スコット 私の母で御座います。私は寫眞を持つて居ります。(彼、それをポケットから出す)

マンカトン (それを取りながら) お母さんはこのことを知つてゐるかね？

スコット お願ひです、母には知らせないで下さい！

リンカーン これ、これ、息子、お前は銃殺されはせん。

スコット (間を置いて) 銃殺されませんか？

リンカーン されない。されない。

スコット 銃——殺——され——ない！(彼は遂に泣き崩れる。すゝり泣く)

リンカーン (起ち上り、彼の方へ行き) これ、これ。お前が目を覺して居られなかつたといつた

のを私は信用する。これからお前を信用して、お前の聯隊へ歸す。(彼元の椅子へかける)

スコット いつ歸して頂けますか？

リンカーン 明日歸れるだらう。——戦争は終つてゐるだらうか。

スコット まだ終つては居りませんか？

リンカーン 全く終つてはゐない。

スコット どうぞ、今夜歸して下さい。——今夜歸して下さい。

リンカーン よろしい。(彼、手紙を書く) お前はミード將軍の居るところを知つてゐるかな？

スコット 存じません。

リンカーン 誰か向ふにゐる護衛兵の中から一人こゝへ來て貰ひなさい。(スコット、一人を呼び

こむ)

リンカーン お前さんが預つてゐた罪人は放免された。この人を直ぐにこの手紙と一緒にミ

ード將軍のところへ連れて行きなさい。(紙片を彼に渡す)

兵士 はい。

スコット 有難う御座います。

(彼、敬禮し、兵士と共に出て行く)

リンカーン　　へい。

へい (外で) はい。(彼入り来る)

リンカーン　　時間は何時かな?

へい (テーブルの上の時計を見ながら) 恰度、九時半近くで御座います。

リンカーン　　私はこゝで少し許り寐る。お前も横になつたがいゝぞ。何か知らせがあつたら起して呉れるだらう。

(リンカーン椅子を二脚そろへ、その上に身體を外套でくるんで寛ぐ。へいはベンチの上で、これに見做ふ。稍あつて、グラント入り來り、この光景を見て、そつとランプを消し立ち去る)

—幕—

幕上れば前場のまゝにて、リンカーンとへい眠り居れり。曉の光、室内に滿つ。當番兵、湯氣のあがるコーヒーのカップを二つとビスケットを盆にのせて入り来る。リンカーン目を覺す。

リンカーン　　お早よう。

當番兵　　お早よう御座います。

リンカーン　　(コーヒーとビスケットを取りながら) 有難う。

(當番兵へいのところへ行きしが、まだ眠り續け居る故ためらふ)

リンカーン　　へい。(高聲で呼びながら) へい。

へい (びつくりして起ち上りながら) ハロウ、何んだ、畜生! あ、失禮いたしました。

リンカーン　　いや、ちつとも。コーヒーを一つお飲み。

へい　　有難う御座います。(彼コーヒーとビスケットを取る。當番兵去る)

リンカーン　　よく眠つたかな、へい?

へい　　少し敷くちやになつたやうな氣がします。ベッドから一度落つこちたやうで御座います。

リンカーン　　今何時か?

へい (懐中時計を見ながら) 六時で御座います。

(グラント入り来る)

グラント　　お早よう御座います。お早よう、へい。

リンカーン お早よう、司令官。

ヘイ お早よう御座います。

グラント 昨夜は私、あなた方をそつとして置きました。ミードから今報告がまわりました。リーは四時に、休戦を申込んで来ました。

リンカーン (沈黙の後) この四年の間、私はこの瞬間の来るのを待ちあぐんで、その爲めにのみ生きて来た。それがかうして来て見ると、不思議にも呆氣ないものだ。グラント、君はこの國に信實に仕へた。そして、私の仕事を可能にしてくれた。(彼グラントの手を取る) 有難う。

グラント 若し私が失敗したとしても、それはあなたのせゐではなかつたでせう。あなたが私を信任してゐて下されたから成功しました。

リンカーン リーはどこにゐる？

グラント 直きこゝへ参ります。ミードは今にも到着させよう。

リンカーン リーをどこで待たせるかな？

グラント 一室を準備してあります。あなたもお會ひ下さいませうか？

リンカーン とんでもない、グラント。それは君の仕事だ。たゞ君としては政治上のことはいいやうに。——これはわざ／＼言ふまでもない事だつたな。

グラント (ポケットから一枚の紙を取り出しながら) これが私の提出する條件です。

リンカーン (それを讀みながら) うむ、うむ。この條件は君といふ人間を光らせる。(彼その紙をテーブルの上に置く)

(傳令入り来る)

傳令 ミード將軍が到着されました。

グラント こちらへ通せ。

傳令 はい。(彼行く)

グラント 私は若い頃ロバート・リーからいろ／＼と學びました。彼は、我々のうちの大抵の者よりも傑れてゐます。今日の仕事は、私にとり随分辛いことになるでせう。

リンカーン その仕事を勇氣のある紳士がするのだから嬉しいよ、グラント。(ミード將軍と副官ツイン大佐入り来る。ミード敬禮す) お芽出度う、ミード。よく、君、やつて呉れたなあ。

ミード 有難う御座います。

グラント あれからもつと戦闘はあつたか？

ミード 一二時間、可成りきつひのが續きました。

グラント リーが来るまではまだ餘程間があるかな？

ミード　ほんの数分だらうと思ひます。

グラント　君は條件については何んにも言つてないだらうな？

ミード　言つてありません。

リンカーン　スコットといふ少年が君のところへ行つたか？

ミード　はい、まゐりました。來ると直ぐ戦闘に参加しました。そして戦死しました。さうぢやなかつたか、ソーン？

ソーン　左様です。

リンカーン　戦死した？　この世の中は、不思議なものだなあ、グラント。

ミード　反軍に對し、何か宣言を發表されますでせうか？

グラント　私は――。

リンカーン　いや、いや。あの連中を首くゞつたり、銃殺したりするやうなことは、私は一切やらない。――あの中の一掃の悪者に對してもだ。彼奴等をおどかして國の外へ逃げ出させるんだ。門を皆明けはなす。門をおろす。うわつと、威して追ひ拂ふ。(追ひ拂ふ仕ぐさして兩腕を振る) 左様なら、グラント。出来るだけ早くワシントンへ報告して呉れよ。(グラントと握手す) 左様なら、諸君。行かう、ヘイ。

(ミード敬禮し、リンカーン去る。(ヘイ續く))

グラント　リーと一緒にゐるのは誰か？

ミード　參謀一人だけであります。

グラント　ソーン、君はマリンスに會つて呉れないか？　そして、リー將軍が到着したら、直ぐ知らせるやうに言つて呉れ。

ソーン　畏りました。(彼出て行く)

グラント　さあて、ミード、大仕事だつたなあ。

ミード　左様でした。

グラント　我々には勇氣と決斷があつた。それから、偉大な武人を倒す智恵もあつた。――これだけは誰にも憚らず私はいふ。だが、ミード、我々のために大義名分をはつきり掲げてくれたのはエーブラハム・リンカーンだ。あゝいふ人の手に委せる爲めにこの勝利を得たかと思ふと、愉快だ。一杯どうだ、ミード？　(ウイスキーを注ぎながら) 飲まんか？　(自分で飲みながら) あのなら、ミード、世間には馬鹿者共が居てなあ、次の大統領候補におれを立てて、リンカーンに對抗させようとするんだ。おれはおれなりの虚榮心はあるさ、だがそんな馬鹿な眞似はしない。

(マリンスズ入り来る)

マリンスズ リー將軍がお見えであります。

グラント ミード、リー將軍はこの室で私に會ふ光榮を許して下さるであらうか？ (ミード、言はれたまゝを傳へる爲めに、敬禮して出て行く) おい、おい、おい、(舌打ちして) おれの帽子はどこだ、マリンスズ？ それから劍は。

マリンスズ こゝに御座います。(マリンスズ、揃へて渡す)

(ミードとソーン入り来り、扉口に立ち、直立不動の姿勢をとる。南軍總司令官ロバート・リー、參謀一人を従へて入り来る。彼の面上には、今が今まで直面して来た幾歳月にわたる苦惱が、あり／＼と見える。然し、彼が面容や身の廻りをきちんと手入れせると、グラントのなりふり構はぬ風采とは、際立つた對照をなす。兩軍司令官は互に顔と顔とを見つめて立つ。グラント先づ擧手の禮をし、リーこれに答禮す)

グラント あなたは私の好敵手でありました。それを誇り得るこの機會を、私に與へて下された。

リー 私は全力を盡しました。然し、敗北を認めます。

グラント あなたが態々こゝにお出でになられたのは――

リー どういふ條件で降伏を許されるか、それを承はるためです。

グラント (テーブルの上から例の紙を取り、それをリーに渡しながら) 條件は皆簡單です。苛酷だ

とお考へになるやうなものでなければ幸ひです。

リー (條件を一讀してから) あなたは御寛大です。提案を一つすることをお許し下さるでせうか？

グラント それを私が計らうことが出来たら、私の特權と思ひます。

リー あなたは、我方の將校が馬をそのまゝ所有することを許して下さる。これは忝ないことです。我々の騎兵隊の馬は、皆それ／＼彼等の持ち馬です。

グラント わかりました。その馬は皆んな郷里の農作地で入り用でせう。差し上げませう。

リー 御禮を申します。それは我々南部の州民を和解させる爲めに、大いに役に立つことと思はれます。私はあなたの條件を承諾いたします。

(リー自分の佩せる劍を革帶から外してグラントに差出す)

グラント いや、いや。その事をも條件に含めるべき筈でした。その劍の正しい在りかは一つしかない筈です。どうぞお納め下さい。

(リー劍を元の如くにつるす。グラント手を差しのべ、リーこれを受く。二人敬禮し、リー立ち去る)

——幕——

第六場

一八六五年四月十四日の夕。とある劇場の小休憩場。遠方側には、特別席への扉が三つ。暫くの間沈黙。一般観客席から喝采が起き、ボツタスの扉が次ぎ次ぎ開かれる。中央のボツタスに、リンカーン、スタントン、リンカーン夫人、及び他の一人の婦人と、一人の將校が話しつゝあるが見られる。他のボツタスの客等は休憩場へ出で来る。その他よりも出で来る人々も加はり、そちこちに小グループをつくり、立てるもあり、坐せるもあり、皆忙しげに談す。

一婦人 大層面白いでは御座いませんか？

その同伴者 面白いことは面白い御座いますね。ですが、眞に迫るところがありませんね。

他の婦人 あの黒ん坊の娘、實に巧いちやありませんか？ なんとといふ名前でしたかね？

一紳士 (プログラムを見ながら) エリナー・クラウンです。

他の紳士 こゝへ恐しい隙間風が来るぢやないか？ 風を引いて、あとで頸がこはばりはせん

かな。

その妻 襟巻をすつとしてゐなくてはいけませんよ。

紳士 妙な恰好になるからねえ。

他の婦人 大統領は、今夜は大へん愉快さうにお見えですね、さうぢやありません？

他の一人 無理もありませんね。お得意でせうからな。

(黒服を着けたる一人の若き男、リンカーンのボツタスを人目を盗んで覗き見しつゝ、人々の間を潜り歩き失せる。これがジョージ・ウイルクス・ブリス)

一婦人 (他に挨拶しつゝ) あゝら、ミセス・ペンニングトン。御主人はいつお歸りで御座います？

(二人はぶら／＼歩きながら去り行く。スーツ、外套や襟巻の類を抱へて入り来る。ボツタスへ行きリンカーン夫人と話して後、人々より離れて、椅子に坐つて待つ)

一若者 僕はむしろ自分で舞臺に立たうかと思つてゐるんだ。友人等は、僕がすばぬけていゝと言つてゐる。たゞ、健康が堪へられるか、どうかなんだ。

一少女 あゝら、舞臺つてとても樂なものでせう。たゞお芝居してゐるだけでせう。——樂なことだわ。

「リンカーン」と呼ぶ聲が客席より聴え来る。それがきつかけとなり、「大統領」^{スミット}「演説」
「エーブラハム・リンカーン」などの呼聲が続く。休憩場に於ける話聲はたと止み、皆耳
を傾ける。暫くして、リンカーンの起ち上るが見ゆ。割れる如き喝采。休憩場に在りし人
人は皆ボツクスの扉のまはりへ立つ。リンカーン片手を差し伸ぶ。急に静まる。

リンカーン 友人諸君。私はあなた方のこの御好意のあらはれに接して、感動いたして居り
ます。深く感動いたして居ります。暗く困難であつた四年の歳月の後、我々が志した大願は
成就されました。ジェネラル・リーがジェネラル・グラントに降伏した結果、戦場にある南部
聯合軍はたゞ一個勢力を残すのみとなりました。そして終局は目前に近づき、且つ確實であり
ます。(喝采の聲) 只今、私は申すべきことは殆んどありません。私はさまざまな重大な事件を
自ら支配して来たとは申しません。否むしろ、その多くの事件が私を支配したと率直に白状い
たします。然しながら、さまざまな事件が私の前に現はれることに、私はいつも一つの信念を
以つてこれ等に對處して参りました。我々はアメリカ合衆國ユニオンを保ち得ました。我々は
一つの大きな悪を除きました。(喝采) 和解の仕事、混乱を無くし秩序を立てる仕事、正義と慈悲
とを兼ねた解決を齎す仕事、再び結合するこの國の生活をして、好意と寛大とに満ち榮えたるも
のに導く仕事——これ等は我々の全智能と忠誠心とを以つてして始めて成就し得たものであり

ます。この大事業のために、私が少しでも役立つかも知れぬといふことは、私の一生中最も誇
り得る希望であります。(喝采) それが何でありませうとも、今日までに、あなた方が私に示さ
れた親切と忍耐に對するお返しとしては、まことに數ふるに足るものではありません。悪意は
何人に對しても抱かず、慈悲の心は總ての人に對して持ち、神の下、この國家に自由を新しく
誕生せしめ、又、人民の、人民に依つての、人民の爲めの政府を地上から滅亡せしめない事—
—この二つの決心をこゝで我々總てが固めるべきであります。

(大喝采の聲。それが消えると、一人のボーイが休憩場を通りながら、「皆さま、最後の幕
で御座います」と叫んで行く。居合せし観客等は四散しボツクスの扉は皆閉される。スー
ザンひとり残り、暫時の間沈黙。——數秒の後、ブリス現はれ、スーザンを注視し、彼女
の目が自分を凝視し居らざるを確める。それより彼は中央ボツクスに向ひ忍び寄り、マン
トの下より片手を出す。その手は拳銃を握り居れり。扉口の前にて身構へ、素早く扉を明
け、銃を射ち、扉(自動開閉扉)を手早く片手にて閉め、疾走す。扉は再びさつと兩方に
開かれ、かの將校飛び出て後を追ふ。ボツクスの中には、スタントンに支へられ居れるリ
ンカーンの傍に夫人が跪き居れるが見ゆ。劇場中しーんとして全くの沈黙。扉は再び閉ざ
る。)

スーザン (この間、扉口まで走り、そこに吸り泣きつゝ跪き) 御主人さま、御主人さま! いや、
いや、信じられない、私の御主人さまとは信じられない。

(他の扉みな開かれ、中より出で来し人々、他からも出で来し人々、休憩室のそちこちに三々伍々、恐怖に打たれし面持にて集る。その時、中央の扉再び開かれ、スタントン出で来り、後を閉む)

スタントン、彼はも早や永久の人となつた。

幕

(終)

昭和二十一年二月十日 印刷
昭和二十一年二月十五日 發行

エーブラハム・リンカーン

定價三圓五十錢

譯者 鈴木 文 史 朗

發行所 吉田 庄 藏

印刷所 吉田 印 刷

配給元 日本出版配給統制株式會社

東京都神田區淡路町二ノ九

發行所 吉田 書 房

本社 東京都下谷區上野區本町五二

電話 下谷一三九八番

支社 伊勢崎市上泉町二九八

電話 伊勢崎代裝五三五番



終



¥ 3.50